

February 2025
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

PILGRIM JOURNALS

終演時のカーテンコールを 撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」[#nhkso]の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.



「フラッシュ」オフ 設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が
「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to “flash off mode.”

Make sure that your smartphone is on
“flash off mode” before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カミナリマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」[自動(オート)]「オフ」に変更できます。

インターネット アンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは52ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへ
アクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯電話、
時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off
your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、
物音が出ないようにご注意ください
Please refrain from making any noise, such as engaging
in private conversations or turning booklet pages.



大きく手足を揺らしたり体を乗り出ししたりするなど
他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください
Do not disturb others by overly swaying your body.



発熱等の体調不良時には
ご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall
if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻まで
お楽しみください
Please wait until the performance has completed
before clapping hands or shouting “Bravo.”



演奏中の入退場は
ご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat
during the performance.



適切な手指の消毒、
咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection
and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします
(終演時のカーテンコールをのぞく)
Video or audio recordings, and still photography at the
auditorium are strictly prohibited during the performance.
(Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているか
ご確認ください
Please make sure
that your hearing aids are properly fitted.



「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、
周囲の方へのご配慮にご協力をお願いいたします
When shouting “Bravo,”
please be considerate of people around you.

PHILHARMONY

CONTENTS
FEBRUARY 2025

2

- 4 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 11 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 20 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 27 [シリーズ] **N響百年史** | 第53回 | **新交響楽団、海を渡る** 片山杜秀
- 2 NHK交響楽団メンバー
- 31 2025年4月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 33 チケットのご案内
- 34 「WEBチケットN響」「N響ガイド」サービス手数料改定のお知らせ
- 35 2024–25定期公演プログラム
- 36 2025–26定期公演プログラム
- 39 特別公演／各地の公演／海外公演
- 46 曲目解説執筆者／N響の出演番組
- 47 Information (2025年4月からのコンサートマスター体制について)
- 48 特別支援・特別協力・賛助会員
- 52 みなさまの声をお聞かせください!
- 53 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

- 54 Program A
- 59 Program B
- 63 Program C
- 68 The Subscription Concerts Program 2024–25
- 69 The Subscription Concerts Program 2025–26
- 72 Overseas Tours
- 73 N響関連のお知らせ
- 74 N響の社会貢献
- 75 役員等・団友

NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイージ

名誉音楽監督:シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者:バーヴォ・ヤルヴィ

正指揮者:尾高忠明、下野竜也

特別コンサートマスター:篠崎史紀

第1コンサートマスター:郷古 廉

ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

青木 調
飯塚歩夢
○宇根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
東條太河
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
松田拓之
○三又治彦
宮川奈々
○山岸 努
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
村尾隆人
矢津将也
山田慶一
○横島礼理

横山俊朗
米田有花

* 湯原佑衣

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
* 栗林衣李
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
○中 実徳
○西山健一
藤村俊介
藤森洸一
宮坂拓志
村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
○市川雅典
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真步
中村淳二

オーボエ

◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
* 大内秀介
佐藤由起
森田 格

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
* 藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター、*契約)

こちらのQRコードから
楽員の詳しいプロフィールが
ご覧いただけます。

<https://www.nhkso.or.jp/about/member/index.html>



Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

 NTT 東日本

東京海上ホールディングス株式会社

株式会社 ポケモン

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

Nippon Telegraph and Telephone East Corporation

Tokio Marine Holdings, Inc.

The Pokémon Company

PROGRAM

A

第2031回

NHKホール

2/8 土 6:00pm

2/9 日 2:00pm

指揮

ペトル・ポペルカ

ホルン

ラデク・バボラーク

コンサートマスター

長原幸太 | プロフィールはp. 47

後援:



テコセンター
東京

ツェムリンスキー

シンフォニエッタ 作品23 [21']

- I きわめて活き活きと
- II バラード:きわめてゆったりと(ポーコ・アダージョ)、
だが引きずらずに
- III ロンド:きわめて活き活きと

R. シュトラウス

ホルン協奏曲 第1番 変ホ長調

作品11 [17']

- I アレグロ
- II アンダンテ
- III ロンド:アレグロ

—— 休憩 (20分) ——

ドヴォルザーク

交響詩「のぼと」作品110 [19']

ヤナーチェク

シンフォニエッタ [23']

- I アレグレット
- II アンダンテ
- III モデラート
- IV アレグレット
- V アンダンテ・コン・モート

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは52ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

ペトル・ポペルカ (指揮)



現在、ヨーロッパとアメリカで旋風を巻き起こしているチェコ人指揮者だ。指揮者として活動を始めて5年ほどのあいだに、3つのオーケストラの首席指揮者を歴任。その実力から、さらなるステップアップも確実にされている。

1986年、プラハ生まれ。コントラバス奏者として、2010年から9年間、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団の副首席を務めた。指揮活動を本格的に開始したのは2019年。以降、多くの著名オーケストラの指揮台に立ち、目覚ましい活躍を遂げた。2020年から2023年にはノルウェー放送管弦楽団の首席指揮者を務め、2022年からはプラハ放送交響楽団の首席指揮者兼芸術監督に就いている。今季からはウィーン交響楽団の首席指揮者も務める。

2022年、東京交響楽団へ客演して日本デビュー。短期間でオーケストラをひとつにまとめ、繊細にサウンドを作りつつも、スケール感もあふれる演奏が大きな評判を呼んだ。2024年にもプラハ放送交響楽団を率いて来日公演を行っている。

今回、2つの定期公演でNHK交響楽団との初共演を果たす。ツェムリンスキーとヤナーチェクによる《シンフォニエッタ》を軸にしたAプログラムでは、それぞれの作品のスタイルを明瞭に描き出してくれよう。モーツァルトとシューマンによるBプログラムでは、しっかりと組み立てられたバランスと、流れのよさから生まれる完成度の高い演奏が期待できるはずだ。

[鈴木淳史／音楽評論家]

ラデク・バボラーク (ホルン)



2018年9月定期公演でもNHK交響楽団と共演したホルン界の巨匠ラデク・バボラーク。1976年チェコ生まれで、8歳からホルンを学び、プラハ音楽院でベドジフ・ティルシャル教授に師事した。またたく間に各地のコンクールで優勝を重ねるようになり、1994年には難関ARDミュンヘン国際音楽コンクールで優勝し、当時は「ホルンの神童」として世界的な注目を集めていた。その後、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団やベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等のソロ・ホルン奏者を歴任。ソリストとしてもベルリン・フィルはもちろん、ウィーン・フィル、バイエルン放送響等と共演、世界的な活躍を続けてきた。

室内楽のジャンルでもチェコの仲間たちと結成した木管五重奏団アフラートウス・クインテットやバボラーク・アンサンブルで積極的な活動を行い、世界的な名手たちとさまざまな形で共演を重ねている。録音にも積極的で、各国のメジャーレーベルに膨大な録音を残している。また最近では指揮活動でも活躍し、日本ではサイトウ・キネン・オーケストラ、水戸室内管弦楽団等に客演。現在は山形交響楽団のミュージック・パートナーを務めている。

[片桐卓也／音楽評論家]

ポペルカの出身国であるチェコにゆかりのある作品を並べたプログラム。しかも、超有名な曲の羅列とは一線を画したコンセプトだ。19世紀的な西洋音楽……さらにはそれを育んだヨーロッパの近代社会が限界に達するなかで、新時代を創出しようとした音楽家たちの想いの結晶である。しかも各曲とも、20世紀初頭まではチェコの一帯を支配していたオーストリア、さらにはドイツ語圏の影響を抜きには語れぬ作品に他ならない。

ツェムリンスキー

シンフォニエッタ 作品23

^{たそがれ}黄昏の時代を迎えつつあったハプスブルク家のお膝元、オーストリア＝ハンガリー帝国の都ウィーンに生まれ、「世紀末」あるいは「世紀転換期」の音楽文化の担い手となったアレクサンダー・ツェムリンスキー（1871～1942）。そんな彼が、ハプスブルク家の帝国も滅亡し、ナチス・ドイツの脅威が忍び寄るなか、1934年に手掛けたのが《シンフォニエッタ》である（なおツェムリンスキーは、そうした激動期の1911年から1927年にかけて、プラハの新ドイツ劇場の楽長を務めていた）。

一聴すればわかるように、そこにはツェムリンスキーが大きな影響を受けたマーラー（1860～1911）の交響曲にも通じる、濃厚な官能性や^{たいはいび}頹廃美が^{あふ}溢れている。自らの作品（《弦楽四重奏曲第2番》《メーテルリンク歌曲集》など）を引用することで、私小説的な性格を与える試みも、マーラーが交響曲でしばしばおこなっていたことだ。

ただしツェムリンスキーの場合、「シンフォニエッタ」つまり「小さな交響曲」というタイトルが示すように、交響曲の可能性を極限まで押し広げたマーラーとは異なっていた。咽^{むせ}ぶがごとく芳醇^{ほうじゆん}な響きのなかに、時折彼の弟子であったシェーンベルク（1874～1951）を彷彿^{ほうふ}させる^{れいり}伶俐な現代性が、比較的小ぶりなオーケストラによってもたらされるのもその表れ。3つの楽章それぞれに、「きわめて活き活きと」「バラード：きわめてゆったりと、だが引きずらずに」「^{たんび}ロンド：きわめて活き活きと」と、耽美的な沈潜よりも、ある程度以上のスピード感が求められている点も、時代の変化を明確に感じさせる。

作曲年代	1934年
初演	1935年2月19日、プラハ、ハインリヒ・ヤロヴェッツ指揮
楽器編成	フルート2（ピッコロ1）、オーボエ2（イングリッシュ・ホルン1）、クラリネット2（Esクラリネット1）、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、ティンパニ、シンバル、小太鼓、トムトム、トライアングル、タムプリン、グロッケンシュピール、シロフォン、ハープ1、弦楽

ホルン協奏曲 第1番 変ホ長調 作品11

マーラーやツェムリンスキーと並び、「世紀末／世紀転換期」の音楽の旗手となるリヒャルト・シュトラウス(1864～1949)。ただしこの協奏曲は、そうした音楽の基となったワーグナー(1813～1883)からの影響を大に発揮する以前の1882年から1883年にかけて作られ、モーツァルト(1756～1791)などのホルン協奏曲をも彷彿させる「保守的な」作品と言われることもある。

全編に溢れる典雅な響きや、「アレグロ」「アンダンテ」「ロンド：アレグロ」という古典派以来の協奏曲の形式に則って書かれている点など、「天才少年」として鳴らしたR. シュトラウスが、「神童」モーツァルトの伝統に倣った若書きの作品とも捉えられるだろう。R. シュトラウスの父親自身が大のワーグナー嫌いで、保守的な音楽を好んだホルン奏者だった(彼自身、ホルン協奏曲を書いている)ことを考えると尚更である。

ただし、やがてワーグナーに傾倒し、交響詩をはじめ当時の音楽界から超モダンと見なされる作品を書くようになったR. シュトラウスだが、徐々にワーグナーの巨大すぎる影に悩み始めてゆく。またそれを打破する手段として、進歩進化を標榜するワーグナーを生み出した19世紀的な価値観を離れ、当の19世紀がともすれば前近代として批判のやり玉にあげてきた18世紀、つまりモーツァルトの時代に彼は着目するようになっていった。折しも、世紀が変わった20世紀初頭の話である。となると、この《ホルン協奏曲》も、そうしたR. シュトラウスの新たな視点を、先取りするものだったのかもしれない。

作曲年代	1882～1883年
初演	1885年3月4日、マイニンゲン、ハンス・フォン・ビューロー指揮、グスタフ・ラインホース独奏
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽、ホルン・ソロ

ドヴォルザーク

交響詩「のぼと」作品110

交響曲をはじめとするさまざまな作品で、壮年期にはチェコを代表する音楽家として押しも押されぬ世界的名声を築いていたアントニン・ドヴォルザーク(1841～1904)。そんな彼が世紀転換期の1896年から1897年にかけて集中的に取り組んだ新たなジャンルこそ、R. シュトラウスなどの活躍により時代の最先端を行くと目されていた交響詩である。

なおドヴォルザークが書いた5つの交響詩中4曲は、エルベン(1811～1870)という人

物が編んだ民話詩集『花束』（1853年初版）に依っている。エルベンは、歴史家であると同時にスラヴ文化圏の民話や民謡の収集家であり、さらにはロマン派の系譜に連なる文筆家でもあった。

《のぼと》のストーリーと構成だが、1) 葬送行進曲の調べに乗って若妻が夫の死を嘆いている（だが実のところ彼女は彼を毒殺したという過去を持つ）→2) 彼女は別の若い男と出会い恋に落ちる→3) 2人の結婚披露宴でボヘミア風の舞曲が演奏される→4) 前夫の墓に詣でたところ、夫殺しの真相をのぼとに暴露された若妻は自殺する→5) 彼女の魂は超越的な力によって許され、浄化される、というもの。エルベンのオリジナルとは異なっており、ドヴォルザークは終結部に独奏ヴァイオリンを用い、世の価値判断を超えて起こりうる人間存在の苦しみに対する許し、あるいは死のなかに明滅する愛の瞬間を描いた。それは後輩のマラーなどが当時追ひ求めていた人生哲学^{ほうりつ}を彷彿させ、ドヴォルザークも世紀末芸術に連なるひとりだったことを再認識させる。

作曲年代	1896年
初演	1898年3月20日、ブルノ、レオシュ・ヤナーチェク指揮
楽器編成	フルート2（ピッコロ1）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、タンブリン、ハープ1、弦楽、バンダ：トランペット3

ヤナーチェク

シンフォニエッタ

ドヴォルザーク自身が活躍した、プラハを中心地とするチェコの西部ボヘミア。それと対を成すのが、彼が手掛けた《交響詩「のぼと」》の初演もおこなったレオシュ・ヤナーチェク（1854～1928）の本拠地、ブルノを中心地とするチェコの東部モラヴィアである。しかも世紀転換期を代表するチェコの音楽家として頭角をあらわしたヤナーチェクの場合、19世紀まではとかくボヘミアにのみ注目が集まりがちだった状況と一線を画し、モラヴィアの民謡や伝承に根差した作品を数多く手がけた。

《シンフォニエッタ》は、ヤナーチェク最晩年の1926年の作品。オーストリアの支配下から独立しようという機運が高まり始めた19世紀後半のチェコで創設された、愛国的かつ民主主義的な運動協会＝ソコルからの委嘱を受けたのがきっかけだった。冒頭の楽章がファンファーレで始まり、この動機がさまざまな変奏を経て曲全体に張り巡らされているだけでなく、バンダも加わり全曲に活発な運動性が満ちているのも、その表れだ。またこうした経緯もあり、この作品はチェコの陸軍^{きさき}に捧げられることも考えられていた。

全体は5つの楽章から成っており、〈ファンファーレ〉〈城塞（ブルノ郊外のシュビルベルク城）〉〈修道院（ブルノの王妃の修道院）〉〈街路（古城に至る道）〉〈市庁舎（ブルノ旧市庁舎）〉という、

第1次世界大戦後に誕生したチェコスロヴァキアの一翼を成すブルノのランドマークを彷彿させるタイトルが付けられていたこともある。ヤナーチェク自身の言によれば「今日の自由なチェコの人々を表現しようとした」当作品は、重厚壮大な19世紀型の交響曲とは異なる、弾けんばかりのエネルギーに溢れた、新時代の小交響曲に他ならなかった。

作曲年代	1926年
初演	1926年6月26日、ブラハ、ヴァーツラフ・ターリヒ指揮
楽器編成	フルート4（ピッコロ1）、オーボエ2（イングリッシュ・ホルン1）、クラリネット2（Esクラリネット1）、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン4、チューバ1、ティンパニ、シンバル、グロックenschubiel、ハープ1、弦楽、バンダ:トランペット9、バス・トランペット2、テナー・チューバ2（今回はユーフォニアムで演奏）

チェコ東部のモラヴィアに生まれたヤナーチェクは、少年聖歌隊で音楽の才能を見出され、教員養成学校を出るとプラハやライプツヒ、ウィーンなどに赴き音楽を学んだ。そしてモラヴィアの首都ブルノに戻ったあとは、オルガン学校を開設したり、音楽新聞を発刊したりと、地域の音楽文化に大きく貢献している。モラヴィア民謡の収集にも熱心で、その旋律やリズムを自作に採り入れながら独自の作風を確立した。

Leoš Janáček (1854–1928)

レオシュ・ヤナーチェク

故郷のモラヴィアを愛した

A
2025
FEBRUARY
[第2031回]
~~~~~



ブルノの市庁舎に、シュピルベルク城の城壁に  
誇らしく響きわたるファンファーレ

イラストレーション: ©IKE

シンフォニエッタ

## 最晩年につくられた小交響曲

《シンフォニエッタ》には、ヤナーチェクの愛国心があふれている。第1次世界大戦後、ついにチェコが独立宣言した当時の高揚感や作曲者の喜びが伝わるような、晴れやかな曲調だ。作品は、ブルノのシュピルベルク城や、当時のブルノ市庁舎といった風景に絡めて作られており、祖国を誇るヤナーチェクの姿が目に浮かぶよう。

B

第2032回

サントリーホール

2/13 木 7:00pm

2/14 金 7:00pm

B

13 &amp; 14, FEB. 2026

指揮

ペトル・ポペルカ | プロフィールは p. 5

メゾ・ソプラノ

エマ・ニコロフスカ\*

コンサートマスター

郷古 廉

後援:

チェコセンター  
東京

モーツァルト

アリア「私は行く、だがどこへ」

K. 583\* [4']

モーツァルト

アリア「大いなる魂と高貴な心は」

K. 578\* [4']

モーツァルト

交響曲 第25番 ト短調 K. 183 [24']

I アレグロ・コン・ブリオ

II アンダンテ

III メヌエット

IV アレグロ

モーツァルト

レチタティーヴォとアリア

「私のうるわしい恋人よ、さようなら

—とどまって下さい、ああいという人よ」

K. 528\* [10']

—— 休憩 (20分) ——

シューマン

交響曲 第1番 変ロ長調 作品38「春」

[30']

I アンダンテ・ウン・ポーコ・マエストーソ

—アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ

II ラルゲット

III スケルツォ:モルト・ヴィヴァーチェ

IV アレグロ・アニマート・エ・グラチオーソ

※演奏時間は目安です。

## インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは52ページをご覧ください



こちらのQRコードから

アンケートページへアクセスできます


<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## エマ・ニコロフスカ(メゾ・ソプラノ)



STYLING: Y. KAWAKI

エマ・ニコロフスカは北マケドニア出身。カナダのトロントで育ち、グレン・ゲールド・スクールでヴァイオリンを学んだ後、声楽に転向。ロンドンのギルドホール音楽演劇学校で声楽の修士号を取得。若手発掘のプロジェクトとして知られるBBCのニュー・ジェネレーション・アーティスト2019-2022に選ばれる。2022-23シーズンには、自身がオペラ・スタジオのメンバーでもあったベルリン国立歌劇場で、《ばらの騎士》オクタヴィアン役で役名デビュー。2023年10月にはコヴェント・ガーデンのリンブリー・スタジオで上演されたジョージ・ベンジャミンの《Picture a Day Like This》で主役の女性役を演じ高い評価を得ている。また、2024年には《ロメオとジュリエット》ステファノ役でベルリン国立歌劇場に出演。オペラ以外でもアンドラーシュ・シフ、マルタ・アルゲリッチとも共演するなど、コンサートでも活躍している。

今回N響と共演するのは、モーツァルトが他の作曲家の作品に挿入するために書いたアリアや、演奏会用のいわゆる「コンサート・アリア」と呼ばれている作品。いずれも特定の歌手のために書かれており、歌手の力量を知るにはうってつけの作品だ。今回の公演が日本デビューとなる期待の新星がどんな歌声を披露してくれるのか、大いに注目される。

[室田尚子／音楽評論家]

## Program Notes | 松田 聡

現在の演奏会では、後半のメインに交響曲を据えるのが一般的だが、これは19世紀前半に徐々に定まった方式である。それ以前、18世紀後半の演奏会では、アリアや協奏曲など、ソリストが活躍する多彩な演目が並ぶなか、交響曲はプログラムの最初や中ほどに組み込まれていた。そのような、それぞれの時代の演奏会の様子も思い浮かべながらウォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756～1791)とローベルト・シューマン(1810～1856)の音楽を味わうことができる、というのが、このBプログラムである。

## モーツァルト

## アリア「私は行く、だがどこへ」K. 583

1789年11月、ウィーンの宮廷劇場(ブルク劇場)で、2年前に上演が終了したマルティン・イ・ソレル(1754～1806)のオペラ《お人好しの気難し屋》(1786年)が再び舞台にかけられることとなった。ヒロインのルチッラ夫人の役は、ウィーンの舞台にデビューして約4か月のソプラノ歌手、ルイーゼ・ヴィルヌーヴ(生没年不詳)に割り当てられ、モーツァルトは、おそらく彼女からの求めに応じて、ルチッラ夫人の2曲のアリアを作曲しなおした。そのう

ちの1曲が、このアリア(K. 583)である。

ルチッラ夫人の夫ジョコンドは、5年間の結婚生活の間に財産を浪費しつくしてしまった。オペラの後半、第2幕にあるこのアリアでは、事実を知った夫人がショックを受けつつも夫への愛を失わない心境を歌う。モーツァルトは、第1連にアレグロの音楽を当てた後、アンダンテ・ソステヌートへとテンポを落とし、管楽器の美しい響きを背景に第2連をしつとりと歌わせ、ルチッラ夫人の深い内面を浮かび上がらせている。

|      |                           |
|------|---------------------------|
| 作曲年代 | 1789年10月完成                |
| 初演   | 1789年11月9日、ウィーンのブルク劇場     |
| 楽器編成 | クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、弦楽、独唱 |

## モーツァルト

### アリア「大いなる魂と高貴な心は」K. 578

1789年9月、《お人好しの気難し屋》が再演される約2か月前に、ブルク劇場ではチマローザ(1749～1801)のオペラ《ロッカ・アッヅッラの2人の男爵》(1783年)が新たな演目として上演された。ヴィルヌーヴは、こちらでは貴婦人ラウラの役を演じており、モーツァルトはそのときにも、新たにアリア(K. 578)を作曲したのだった。ちなみにヴィルヌーヴは、翌年1月の《コシ・ファン・トゥッテ》(K. 588)の初演の舞台で、主役のひとり、ドラベッラの役を演じた歌手でもある。

ラウラは、ロッカ・アッヅッラの2人の男爵のうちのひとり、トタロ男爵との結婚が決まっていたが、彼女の友人が策略を弄して、自分の妹サンドラを男爵の婚約者に仕立ててしまう。第1幕で男爵に初めて会った際にそのことを知ったラウラが、サンドラに怒りをぶつけて歌うのが、このアリアである。彼女の感情が高ぶっていく様子を、モーツァルトは第2連の途中からアレグロ・アッサイにテンポを速めて生き生きと描いている。

|      |                         |
|------|-------------------------|
| 作曲年代 | 1789年8月完成               |
| 初演   | 1789年9月6日、ウィーンのブルク劇場    |
| 楽器編成 | オーボエ2、ファゴット2、ホルン2、弦楽、独唱 |

## モーツァルト

### 交響曲 第25番ト短調 K. 183

モーツァルトの全部で50曲ほどある交響曲(新発見の番号なしの作品も含む)のなかで、短調の作品は、この《第25番》と、有名な《第40番ト短調》(1788年)の2曲を数えるだけである。作曲家の生きた18世紀後半、短調はおもに悲しみや激情など特別な感情を表

するために、限定的にしか用いられなかった。その分、他のジャンルも含めて、モーツァルトの短調作品は、いずれも印象深い傑作となっているのである。

とはいえ、《第25番》は、単に短調であることだけが注目される作品ではない。この曲は、1773年に17歳のモーツァルトが作曲した6曲目の交響曲にあたる。もしかしたら、6曲で1セットという意識もあったのかもしれないが、それまでの5曲がいずれも比較的軽い性格の3楽章構成の作品であったのに対して、《第25番》は、まるで全体のバランスをとるかのように、それらとは対極にある作品となっている。真摯で重厚な表現に加え、規模の大きい4楽章構成であることや、メヌエットの第3楽章以外はすべてソナタ形式という緊密な構成など、後世の規範に照らして、まさしく本格的な交響曲としての特徴を備えている点に、この曲の大きな特質が認められるのである。

オーケストラの扱いも特筆すべきであり、当時、出せる音に制約のあったホルンは、2種類の楽器を2本ずつ使って短調に対応させ、両端楽章や第3楽章の主部で、きわめて効果的に用いられている。また、長調の第2楽章や第3楽章の中間部で、ファゴットが独立的に扱われているのも、当時としては目立つ用法である。

|      |                      |
|------|----------------------|
| 作曲年代 | 1773年10月5日完成         |
| 初演   | 不明                   |
| 楽器編成 | オーボエ2、ファゴット2、ホルン4、弦楽 |

## モーツァルト

### レチタティーヴォとアリア「私のうるわしい恋人よ、さようなら——とどまって下さい、ああいとしい人よ」K. 528

《ドン・ジョヴァンニ》(K. 527)の世界を凝縮したかのような、濃い情念の表現が印象的なこの演奏会用アリアは、オペラがプラハで初演された5日後に、当地に住むソプラノ歌手、ヨーゼファ・ドゥシェク(1754～1824)のために作曲された。旧知の彼女が、モーツァルトを別荘の客間に閉じ込めて楽譜を書かせ、作曲家がそのお返しに、初見で間違わずに歌うことを、アリアを与える条件とした、という逸話が後世、語られている。

歌詞は、サルコーネ(生没年不詳)執筆のオペラ《なだめられたチェーレレ》(1772年)の台本から採られている。イベリアの王ティターノは、シシリアの女王チェーレレの娘プロセルピナと駆け落ちをするが、結婚を許さない母親に阻止され、死を命じられる。そのティターノが別れの場面で歌う歌詞に曲付けされた本作(K. 528)では、レチタティーヴォと緩急2部分からなるアリアを通じて、彼の、つらいなかでも恋人を想う気持ちが、真に迫って描かれている(なお、18世紀には高位の男性を男性ソプラノ歌手が演じる慣習があり、その歌詞を女性歌手が歌うこともまれではなかった)。

|      |                               |
|------|-------------------------------|
| 作曲年代 | 1787年11月3日完成                  |
| 初演   | 不明                            |
| 楽器編成 | フルート1、オーボエ2、ファゴット2、ホルン2、弦楽、独唱 |

## シューマン

# 交響曲 第1番 変ロ長調 作品38「春」

シューマンは、この曲のスケッチを1841年1月23日から26日にかけて4日間書き上げた。総譜の完成は1か月後の2月20日のことである。彼の最初の交響曲は、まさに一気呵成<sup>かせい</sup>に作曲されたのだが、そこにいたるまでには、長い道のりもあった。

10代の終わりに、ライプツィヒでのベートーヴェン(1770～1827)の交響曲連続演奏会に深く感銘を受けたシューマンは、もっぱらピアノ曲を世に出し続けた20代(1830～1839年)にも、交響曲への志を忘れなかった。1832～1833年にはト短調の交響曲を手がけたが、これは未完に終わらせている。その後、新たな刺激となったのが、1839年1月1日、ウィーンでシューベルト(1797～1828)の《交響曲第8番》の楽譜を「再発見」したことである。金管楽器による「モットー動機」<sup>あふ</sup>の提示に始まるという具体的な共通点もさることながら、全体として生気に満ち溢れた曲調に、この曲からのシューマンの《第1番》への影響をうかがうことができよう。

翌1840年、クララ(1819～1896)と念願の結婚を果たした年に、シューマンはピアノ曲から離れ、歌曲に集中的に取り組んだ。そして、年が明けて、交響曲へと、さらに創作の幅を広げたのであった。作曲の直接の機縁となったのは、ベッtgアー(1815～1870)の詩『汝、雲の霊よ』<sup>なんじ</sup>に接したことである。冬のどんよりした光景を描く詩だが、作曲家は、春の到来を告げる最後の2行にインスピレーションを受け、曲の冒頭の動機へと反映させた、と考えられている。なお、自筆譜では、「春の交響曲」というタイトルのもと、各楽章にも標題が添えられているが、楽譜出版の際には、聴き手のイメージを限定するのを避けようとしたためか、それらは削除された。

第1楽章は序奏付きのソナタ形式によっており、冒頭の動機が楽章全体で活用される。3部形式の第2楽章は、ドイツ・ロマン派ならではの深い情緒をたたえた緩徐楽章。続けて、2つの中間部を持つスケルツォの第3楽章となる。ソナタ形式の第4楽章で第1楽章の活気が戻ってきて、最後はテンポを上げて盛大な終結にいたる。

|      |                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------------|
| 作曲年代 | 1841年1月から2月にかけて(本文参照)。初演後も改訂が行われた                                |
| 初演   | 1841年3月31日、ライプツィヒ、メンデルスゾーン指揮、ゲヴァントハウス管弦楽団                        |
| 楽器編成 | フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、トライアングル、弦楽 |

## モーツァルト

### アリア「私は行く、だがどこへ」K. 583 歌詞対訳

*Vado, ma dove?, aria K. 583*

詞◎ロレンツォ・ダ・ポンテ | Text: Lorenzo Da Ponte

訳◎松田 聡 | Translation: Satoshi Matsuda

Vado, ma dove? oh Dei!

Se de' tormenti suoi,

Se de' sospiri miei

Non sente il ciel pietà.

Tu che mi parli al core,

Guida i miei passi amore;

Tu quel ritegno or togli

Che dubitar mi fa.

私は行く、だがどこへ。おお、神よ。

もし、彼の苦しみに、

もし、私の疑いに、

天が憐れみを感じないならば。

私の心に語りかける愛の神よ、

私の歩みを導いてください。

私に疑念を抱かせているものを、

取り去ってください。

## モーツァルト

### アリア「大いなる魂と高貴な心は」K. 578 歌詞対訳

*Alma grande e nobil core, aria K. 578*

詞◎ジュゼッペ・パロンバ | Text: Giuseppe Palomba

訳◎松田 聡 | Translation: Satoshi Matsuda

Alma grande, e nobil core

Le tue pari ognor disprezza.

Sono dama al fasto avvezza

E so farmi rispettar.

Va, favella a quell' ingrato,

Gli dirai che fida io sono.

Ma non merita perdono,

Sì, mi voglio vendicar.

大いなる魂と高貴な心は

お前の同類を常に軽蔑する。

私は豪華なものに慣れており、

尊敬のされ方を知っている。

行って、あの不実な男に言って聞かせなさい、

私が貞淑だということを言うのよ。

でも、あの男は赦しに値しないわ、

そう、私は復讐がしたいのよ。

## モーツァルト

# レチタティーヴォとアリア「私のうるわしい恋人よ、さようなら —とどまって下さい、ああいとしい人よ」K. 528 歌詞対訳

*Bella mia fiamma, addio—Resta, oh cara, recitative and aria K. 528*

詞◎ミケーレ・サルコーネ | Text: Michele Sarcone

訳◎松田 聡 | Translation: Satoshi Matsuda

## Recitativo

Bella mia fiamma, addio;  
non piacque al cielo  
Di renderci felici. Ecco reciso,  
Prima d'esser compito,  
Quel purissimo nodo,  
Che strinsero fra lor gli animi nostri  
Con il solo voler.  
Vivi; cedi al destin, cedi al dovere.  
Dalla giurata fede  
La mia morte t'assolve;  
A più degno consorte... oh pene!  
unita  
Vivi più lieta e più felice vita.  
Ricordati di me; ma non mai turbi  
D'un infelice sposo  
La rara rimembranza  
il tuo riposo.  
Regina, io vado ad ubbidirti; ah tutto  
Finisca il mio furor col morir mio.  
Cerere, Alfeo, diletta sposa, addio!

## Aria

(a Proserpina) Resta, oh cara; acerba  
morte  
Mi separa, oh Dio! da te.  
(a Cerere) Prendi cura di sua sorte,  
(ad Alfeo) Consolarla almen procura.  
Vado... ahi lasso!  
addio per sempre.

## レチタティーヴォ

私のうるわしい恋人よ、さようなら。  
天は望まれなかったのだ、  
私たちが幸せになることを。切り離されたのだ、  
契りが成就する前に、  
あの純粋な結び目は。  
その結び目が、ただ私たちの意志で、  
魂を互いに結び付けていたのに。  
生きてください。運命に、義務に従ってください。  
貞節であることの誓いから、  
私の死があなたを自由にするのです。  
もっとふさわしい夫と…… ああ、苦痛だが！  
一緒になって  
より喜ばしく幸せな人生を送ってください。  
私のことも思い出してほしい。ただ、  
この不幸な婚約者のことを  
稀に思い出すことがあったとしても、それがあなたの  
安らぎをかき乱すことが決してありませんように。  
女王よ、あなたに服従して出発します。ああ、  
死を伴う私の激情が、すべてを終わらすでしょう。  
チェーレレ、アルフェーオ、いとしい恋人、さようなら！

## アリア

(プロセルピナに)とどまってください、ああいとしい人よ。  
早すぎる死が、  
ああ神よ、私をあなたから引き離す。  
(チェーレレに)彼女の運命に配慮し、  
(アルフェーオに)せめて慰めてあげてください。  
私は行きます…… ああ、悲しいことだ！  
永遠にさようなら。

Quest'affanno, questo passo  
È terribile per me.  
Ah! dov'è il tempio, dov'è l'ara?  
(a Cerere) Vieni, affretta la vendetta!  
Questa vita così amara  
Più soffribile non è.

この息切れ、この足取りが  
私にとっては恐ろしい。  
ああ! どこに神殿が、どこに祭壇があるのだろう?  
(チェーレレに)さあ、復讐<sup>ふくしゅう</sup>を急ぐがよい!  
このようなつらい人生には、  
もう耐えられない。

B

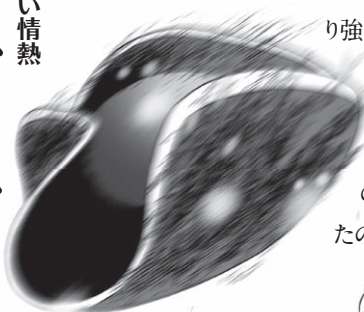
13 & 14, FEB. 2025

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

# アマデウス・モーツァルト

天才作曲家が描く暗い情熱

B  
2025  
FEBRUARY  
[第2032回]



神童として早くから音楽の才能を発揮していたモーツァルト。故郷ザルツブルクに留まることなく、各地を旅してその才をさらに羽ばたかせてゆき、17歳になるころには、すでに交響曲をいくつも作っていた。そしてときは18世紀後半、ゲーテを中心として、人間の感情をより強調するような疾風怒濤（シュトルム・ウント・ドランク）の文学運動がおこった時代。モーツァルトも音楽の世界で、嵐のような暗い情熱を描こうとしたのだろうか。

モーツァルトの心情と呼応するように  
吹きすさぶ風と雪が帽子をさらう—  
イラストレーション：CIKE

## 短調の交響曲

冒頭から切迫したリズムと不穏な響きで緊張感たどよう《交響曲第25番》は、当時の交響曲としてはめずらしく短調で書かれている。モーツァルトが主人公の映画『アマデウス』（1984年）のテーマ曲としても有名だ。ドラマティックなメロディが疾走するような第1楽章、長調なのになぜか不安がつきまとう第2楽章など、動と静のコントラストも楽しみたい。



PROGRAM

C

第2033回

NHKホール

2/21 金 7:00pm

2/22 土 2:00pm

指揮

下野竜也

ヴァイオリン

三浦文彰

コンサートマスター

郷古 廉

スッペ

喜歌劇「輕騎兵」序曲[8']

サン・サーンス

ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調

作品61[30']

I アレグロ・ノン・トロppo

II アンダンティーノ・クワジ・アレグレット

III モルト・モデラート・エ・マエストーン

——休憩(20分)——

スッペ

喜歌劇「詩人と農夫」序曲[10']

オッフェンバック(ロザンタール編)

バレエ音楽「パリの喜び」(抜粋)[37']

序曲

第1曲 アレグロ・ブリランテ

第2曲 ボルカ

第6曲 アレグロ

第8曲 ゆっくりなワルツ

第9曲 テンポ・ディ・マルチャ

第10曲 ヴァルス・モデラート

第11曲 ヴィーヴォ

第12曲 ワルツ

第13曲 アレグロ・モルト

第14曲 ワルツ

第15曲 アレグロ

第16曲 カンカン

第17曲 カドリーユ

第18曲

第22曲 ヴィーヴォ

第23曲 舟歌

※ 演奏時間は目安です。

### インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは52ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## 下野竜也(指揮)



下野竜也が私たちの視界に現れたのは2000年。第12回の東京国際音楽コンクール〈指揮〉(現東京国際指揮者コンクール)で第1位を得たときで、審査委員長はNHK交響楽団正指揮者の前任者のひとり、外山雄三だった。四半世紀近く経た2022年、下野は7年におよんだ広島交響楽団音楽総監督(現在は桂冠指揮者)6年目のシーズンに「次世代指揮者アカデミー&コンクール」を創設、「ひろしま国際指揮者コンクール」と改

称した2024年は審査委員長をクリスティアン・アルミンクに委ね、自身は母体となる「ひろしま国際平和文化祭」の音楽プロデューサーに回った。同地では広島ウインドオーケストラ音楽監督も務め、NHK-FMの音楽番組『吹奏楽のひびき』ではアナウンサー顔負けの巧みな語りを披露する。コンクールや放送の分野でも、下野は外山雄三の衣鉢を継ぐ存在となりつつある。ウィーン留学で磨きをかけた和声感、フレーズ感を基本に音楽を豊かに歌わせる手腕は各地のオーケストラから評価され、独自のプログラミングでも注目される。N響2025年2月Cプログラムでもスプリット(クロアチア)に生まれウィーンへ移住したスッペ、ケルンに生まれパリへ移住したオフエンバックと、ともに1819年生まれのオペレッタ作曲家2人を対比させながら、サン・サーンスがヴィルトウオーゾ(名手)サラサーテに献呈した《ヴァイオリン協奏曲第3番》(三浦文彰独奏)を添える華麗なメニューに臨む。

[池田卓夫／音楽ジャーナリスト]

## 三浦文彰(ヴァイオリン)



華やかな存在感を誇るヴァイオリニストで、2024年春にはブラームスのソナタ全集(ピアノ:清水和音)をリリースしたほか、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団の定期公演に出演。NHK交響楽団の2025年2月の定期公演Cプログラムで弾く流麗なサン・サーンス《ヴァイオリン協奏曲第3番》への期待も、まさに限らない。

ウィーンでバヴェル・ヴェルニコフに師事し、2009年、16歳のときにドイツのハノーファー国際ヴァイオリン・コンクールで優勝。世界のトップステージに躍り出た。NHK音楽祭でグスターボ・ドゥダメル指揮ロサンゼルス・フィルハーモニックと共演しジョン・ウィリアムズ作品を奏でたほか、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団のアーティスト・イン・レジデンスに迎えられた。近年は指揮者としても活躍し、京都市交響楽団とのブラームス《交響曲第1番》が好評を博す。現在「サントリーホールARKクラシックス」のアーティスト・イン・レジデンス・リーダー。2024年6月には恩師徳永二男の後任として宮崎国際音楽祭の音楽監督に就任した。使用楽器は1732年製の銘器グアルネリ・デル・ジェス「カストン」。

[奥田佳道／音楽評論家]

粋なプログラムである。パリとウィーンで華開いたオペレッタの音楽の間に、フランスの作曲家サン・サーンスがスペイン人ヴァイオリニスト、サラサーテのために書いたヴァイオリン協奏曲が挟み込まれている。万国博覧会や芸術音楽の大衆化の時代。スター演奏家の存在と、笑いや技巧のなかに潜む芸術性。19世紀ヨーロッパの賑やかさには、足元が揺らぐ危うさもある。それを鋭く見抜いた作曲家たちの音楽もまた粋である。彼らに共通のエッセンスは、モーツァルトだ。

## スッペ

### 喜歌劇「軽騎兵」序曲

フランツ・フォン・スッペ(1819～1895)の名は、日本では浅草オペラや吹奏楽の分野でもお馴染みである。現在はクロアチアに位置するオーストリア帝国ダルマチア(旧ヴェネツィア共和国領)の街スパラート(スプリト)に生まれたスッペは、1835年の父の死後ウィーンに渡り、本格的に作曲活動を開始した。同年生まれのジャック・オフエンバック(1819～1880)がパリで音楽活動を開始する時期とほぼ並行している。

キャリアの初期にドニゼッティから助言を得て、1845年からは17年間、アン・デア・ウィーン劇場で楽長を務め、ここでマイヤベーアのグランド・オペラ《ユグノー教徒》やジングシュピール(ドイツ語の歌芝居)《シュレジェンの野営》などの指揮もした。オフエンバックのパリ風オペレッタは、1856年にウィーンで初めて《2人の盲人》が上演されて以降大流行したが、スッペはそれ以前から、《詩人と農夫》など芝居用楽曲を数多く作曲していた。これらの経験が混ざり合い、スッペは「ウィンナ・オペレッタ」の創始者と目される作曲家へと成長していく。

《軽騎兵》はオフエンバックの影響を受けたのちの1866年に、ウィーンのカル劇場で初演された2幕のオペレッタである。物語の主題は権力者の支配欲や結婚、親子であることの判明など、モーツァルトの《フィガロの結婚》によく似ている。現在もっぱら演奏される序曲は、物語に登場するハンガリーの軽騎兵の表象が中心となる。冒頭でトランペットからホルンへと受け渡されるファンファーレをはじめとして、軍楽隊風の勇ましさと爽快さが人気の理由のひとつだが、ふと挿入される哀愁的な旋律が、戯画化されたメロドラマのようで楽しい。

|      |                                                                             |
|------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 作曲年代 | 1866年                                                                       |
| 初演   | 1866年3月21日、ウィーン、カル劇場                                                        |
| 楽器編成 | フルート1、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、弦楽 |

## ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 作品61

カミーユ・サン・サーンズ(1835～1921)にとって協奏曲というジャンルは、尊敬する演奏家たちとの敬意に満ちた交流の場だった。19世紀のパリには、高度な技巧とショーマンシップを兼ね備えた名奏者たちが世界各国から集結した。サン・サーンズ自身も、1846年にわずか10歳でピアニストとしてデビューした早熟の名鍵盤奏者であり、彼にとっての理想は常にモーツァルトだった。

スペインからやってきた名ヴァイオリン奏者パブロ・デ・サラサーテ(1844～1908)との出会いは、パリ音楽院での修学時代である。のちのサン・サーンズの追想によれば、ある日「春のように若くフレッシュな」サラサーテが協奏曲を書いてほしいと、彼のもとにやってきた。サン・サーンズは依頼に応じてヴァイオリン協奏曲の《第1番》を1859年に書き、その後1863年に《序奏とロンド・カプリチオーソ》を、そして1880年に本作《ヴァイオリン協奏曲第3番》をサラサーテのために作曲した。19世紀における演奏法の変化についても鋭い考察を行なったサン・サーンズは、サラサーテの演奏について、終始ヴィブラートをつけるような20世紀流の演奏ではなく、(《ヴァイオリン協奏曲第1番》の)両端楽章では情熱的に、緩徐楽章では湖のごとく穏やかに演奏することで大きな効果を生み出していたと、1915年の講演のなかで振り返っている。

**第1楽章**は、曲開始時にヴァイオリン独奏が奏でる4つ(+1つ)の断定的な音からなる主題が構造上の核となり、楽章全体に行き渡っている。**第2楽章**は変ロ長調に転じ、ヴァイオリン独奏が8分の6拍子で舟歌のように心地よく旋律を奏でる。**第3楽章**は妖艶な旋律と技巧性に富んだ、まさにサラサーテにふさわしい音楽で、愉悦を与えてくれる。冒頭から独奏が魅せる即興的な序奏主題のあと、ロ短調の民族舞踊的な第1主題、ニ長調の叙情的な第2主題、ト長調のコラール風主題と、4つのテーマが順に並置され、変化しながらも全体が再現部として繰り返される。再現部ではコラール風主題を金管楽器が軍楽風に色づけし、第2主題を利用したコーダでは祝祭的な雰囲気<sup>にぎ</sup>を伴って、賑やかに終結する。

|      |                                                                           |
|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 作曲年代 | 1880年                                                                     |
| 初演   | 1880年10月15日、ハンブルク、アドルフ・ゲオルク・ベアー指揮、フィルハーモニー管弦楽団、ヴァイオリン独奏パブロ・デ・サラサーテ        |
| 楽器編成 | フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽、ヴァイオリン・ソロ |

## 喜歌劇「詩人と農夫」序曲

モーツァルトの《魔笛》公演で座長を務めたエマヌエル・シカネーダーが1801年に設立したウィーンのアン・デア・ウィーン劇場で、スッペは1845年から指揮者・楽長として働き始めた。劇音楽《詩人と農夫》が作曲・初演されたのはその翌年1846年である。この時はカール・エルマーの台本による喜劇の付随音楽だったが、1900年頃に、脚本家ゲオルク・クルーゼによって、スッペの音楽を用いた3幕のヴォードヴィル・オペレッタへと作り替えられている。物語は詩人と農夫をめぐる複数の男女の思慕が交錯するも、最後にはすべて解決するという、たわいないものだ。

本日演奏される序曲は、各場面音楽をつなぎあわせたメドレーのような作りとなっている。金管楽器の重奏につづいて、ハープの伴奏に乗ったチェロ独奏によるセレナーデ風の音楽で幕を開け、以後は疾走する爽快感とともに楽しめる。間に挿入されるワルツ風の楽句に、ウィンナ・オペレッタへとつながる特徴が垣間みえる。管楽器が活躍することから吹奏楽用にも編曲されて親しまれているが、とりわけ1961年に来日して以降日本の吹奏楽界に多大な影響を及ぼしてきたフランスの軍楽隊ギャルド・レピュブリケーヌ吹奏楽団が得意演目としており、彼らのベスト盤にも含まれている。

|      |                                                                                                |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 作曲年代 | 1846年                                                                                          |
| 初演   | 1846年8月24日、ウィーン、アン・デア・ウィーン劇場                                                                   |
| 楽器編成 | フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、<br>オフイクレイド1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、ハープ1、弦楽 |

### オッフェンバック(ロザンタール編)

## バレエ音楽「パリの喜び」(抜粋)

19世紀フランスの音楽劇は、パリの劇場文化と一体となって発展した。ドイツのケルン近郊に生まれたジャック・オッフェンバック(1819～1880)が、1833年に移住して活躍の場を見出したパリは、法によって劇場ごとにジャンルやレパートリーが細かく規定されていた。オッフェンバックは1855年のパリ万国博覧会を機会に、自作品を上演するブフ・パリジャン座を設営し、ここから快進撃が始まる。「オペレッタ」と呼ばれる、風刺の効いた筋と音楽、踊りを交えたジャンルは、オッフェンバックを通じて発展し、今日のミュージカルへと確実に受け継がれている。

1938年、オッフェンバックによる数々の名作をつなぎ合わせ、ひとつのバレエ音楽とすることを思いついたのは、バレエ・リュスで名を馳せた振付家・ダンサーのレオニード・マシーンである。ディアギレフ亡きあと、モナコのモンテカルロで活動が続けていたバレ

エ・リュスの演目として、エティエンヌ・ド・ボーモン伯爵が台本を担当し、編曲と管弦楽化を、まだ若きフランスの指揮者マニユエル・ロザンタール（1904～2003）が、オッフェンバックの孫の協力を得て実現した。

序曲と物語の大筋は、1866年に初演されたオッフェンバックの喜歌劇《パリの生活》から採用されている。1867年のパリ万国博覧会を記念して作られたこの作品は、外国人観光客が大挙して押し寄せ、拝金主義と欲望が蔓延する当時のパリの表と裏を、皮肉を込めて描いた傑作で、ロッシーニによる「シャンゼリゼのモーツァルト」というオッフェンバック評価を不動のものとした。バレエ版《パリの喜び》では、パリのカフェに次々と現れる個性的な人物を踊りと音楽で描いていく。

序曲のあとは、《地獄のオルフェ（天国と地獄）》のフレンチ・カンカン（第18曲）や、《ホフマン物語》の舟歌（第23曲）など、誰もが知るオッフェンバックの名曲を含む23曲で構成されるが、多くの場合抜粋で演奏される。ロザンタールによる、既存の楽曲から切り貼りしてつなぎ合わせる編曲法がすでに、無声映画の音楽作りで行われていた選編曲の手法にも似ているが、そこからさらにどのような構成で抜粋し、ひとつの管弦楽曲として聴かせるか、指揮者の選択の違いも楽しめる。

|      |                                                                                                                                                     |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 作曲年代 | ロザンタールによる編曲は1938年                                                                                                                                   |
| 初演   | 1938年4月5日、モンテカルロ（モナコ）、モンテカルロ歌劇場、バレエ・リュス・ド・モンテカルロ、エフレム・クルツ指揮                                                                                         |
| 楽器編成 | フルート2（ピッコロ2）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、太太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タンブリン、ウッド・ブロック、テンプル・ブロック、ラチェット、グロッケンシュピール、シロフォン、ピアノ、ハープ1、弦楽 |

オール・ジャンルであふれるダンディズム

# カミーユ・サン・サーンス

Camille Saint-Saëns (1835–1921)

サン・サーンスは優秀だ。演奏家、作曲家としてはもちろん、文筆家としての著述も多く、加えて自然科学や哲学にも通じていた。その手広さは音楽でも同じで、あらゆるジャンルの作品を残している。しかも長生きなので作品数も多い。にもかかわらず話題になることが少ないのは、育ちの良さが漂う鷹揚で伝統的なスタイルゆえだろうか。進取の気風も良いけれど、やっぱり伝統も良いものじゃない？ 上品で端正なダンディズムを今日は堪能したい。

C

2025

FEBRUARY

[第2033回]



## サン・サーンスとサラサーテ

ピアニストとしても活躍していたサン・サーンスは、楽器の演奏にも一家言あったと思われる。そんな彼も一目置いたのが、甘美な音色と完璧な技術で人気を博したヴァイオリニストのサラサーテ。本日演奏される《ヴァイオリン協奏曲第3番》や、《ヴァイオリン協奏曲第1番》《序奏とロンド・カプリチオーソ》がサラサーテに献呈されている。



腕を組んでも隠せない、品の良さ  
イラストレーション: ©IKE

# N響百年史

## 第五十三回 ― 新交響楽団、海を渡る

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。巨匠ワインガルトナーの絶賛を受け、共演も成功を収めて意気揚がる新交響楽団でしたが、彼らの前には戦争の暗雲が立ち込めていました。

### 文化・芸術による国際交流の夢破れ

大指揮者、フェリックス・ワインガルトナーによる新交響楽団を率いての約1か月に及ぶ日本演奏旅行は、1937(昭和12)年6月30日、日比谷公会堂でのコンサートで終わった。メインのプログラムはブラームスの《交響曲第1番》だった。

そのとき、多くの楽団員も聴衆もこれからはよい時代になると確信していたろう。ヨーゼフ・ローゼンシュトックを専任指揮者、つまりは音楽監督的ポジションに迎えてまだ2年め。とはいえ、めきめきと腕を上げている新交響楽団は、ワインガルトナーを皮切りに、今後は次々と欧米の一流指揮者を客演に招いていけるに違いない。定期公演も臨時公演も華やいでゆくだろう。3年後の1940(昭和15)年には、東京でのオリンピックと万国博覧会の開催が決定済みで、そのための準備も着々と進められていた。日本と欧米の文化・芸術の交流は1940年に向かって大きく飛躍していく。音楽に限らず、映画も演劇も美術も文学も。たくさんの催事が開かれるはずだ。日本は満州の問題をめぐって国際連盟を脱退してはいたが、それが五輪や万博の大きな障害となっていたわけではない。そのくらい世界はまだ緩かった。ドイツではヒトラー政権が過激な姿勢を示してはいたが、彼らが必ずしも大戦争を始めるわけでもあるまいと、まだまだ世界は楽観していた。

たとえば日本では1930年代から国立公園の仕組み作りが進められ、1934(昭和9)年には瀬戸内や雲仙や霧島や大雪山や阿寒湖などが、1936(昭和11)年には富士・箱根や吉野・熊野などが、1937年には台湾の大屯山だいとんざんや新高山にいたかやまなどが、次々と国立公園に指定されていったが、それは自然保護だけを目指して

いたのではない。むしろ観光資源の開発なのだ。西洋人にたくさんお金を落としてもらえるような立派なホテルを建てる。もちろん交通路も整備する。いわば観光立国である。オリンピックや万博に連動して外国人旅行者の大量誘致を目指した。東京では歌舞伎や能や相撲もだが、新交響楽団も聴いてもらおう。これが昭和10年代の日本のひとつの夢であった。

ところがワインガルトナーが日本を離れるころ、歴史は動いた。新交響楽団の1937(昭和12)年の秋の定期公演は9月29日の第182回から始まった。ローゼンシュトックが得意のレパートリーからショスタコーヴィチの《交響曲第1番》を日本で初めて指揮した(日本初演は山田耕筰指揮でもう済んでいた)。そのとき日本はワインガルトナーのコンサートまでとはたちまち違う国になっていたと言ってよい。7月7日に北京の盧溝橋で日中両軍が衝突した。8月には上海に飛び火し、全面戦争の様相を呈しはじめた。とはいえ日本も蒋介石率いる中国国民党政府も互いに宣戦布告して正式に戦争ということにしてしまったら、貿易や、それこそ五輪にも万博にも大きく響き、国際環境を激変させてしまうので、“戦争未満”という意味合いをこめて、「事変」という呼称が日本では用いられるようになった。政府もこの言葉を9月2日から正式に使った。ローゼンシュトックのショスタコーヴィチはその27日後であった。

宣戦布告なき戦争は泥沼化していったが、それでも初めのうちは早期収拾の期待があった。日本にも全面戦争を継続する経済的・物資的準備はなかった。欧米諸国の消息筋からは、日本の国力では大陸で戦争できるのはせいぜい数か月が限度と評された。日本としても早くやめるにこしたことはなかった。

ところが1938(昭和13)年1月、新交響楽団を追い出された近衛文麿の兄で、オーケストラ

とも浅からぬ因縁を持つ近衛文麿首相が「帝国政府ハ爾後国民政府(引用者注: 蒋介石率いる国民党政府のこと)ヲ対手トセス」との一節を含む声明を出してしまい、この不用意な言葉が和平の機運を後退させた。戦争が長引くことをいよいよ前提とせねばならない。となるとお金だ。戦費だ。増税だ。早くも、盧溝橋で戦端が開かれた翌月の1937年8月には、贅沢品に対する特別課税がなされていた。

### チケット代にも戦時インフレ

不要不急の贅沢。なんであろうか。文化である。芸術である。音楽である。蓄音機とレコードは1割、管楽器も1割、ピアノや足踏みオルガンや弦楽器やハーモニカは2割から3割の値上げになった。そして戦争長期化が避けられぬと判断された1938年4月からは、より大掛かりな「支那事変特別税」が課されることになった。そこで重視されたのも“贅沢”への課税である。

「支那事変特別税」のひとつの目玉は入場税だった。演芸も演劇も音楽も舞踊も、舞台上での興行となれば、赤字黒字に関係なく入場料の1割が税金に。当然、価格に転嫁される。しかもこの時期、資材が軍需に優先されていったせいで、税金がなくても、楽器の値段は高騰傾向にあった。特に金管楽器はそうである。オーケストラにも経済的負担が増す。新交響楽団のチケット代も上がってゆく。

日中戦争開始前の1937年6月までの定期公演の会員券の代金はというと、A席の定期会員券は1回当たり2円、B席は同じく1円、非会員の1回券は、A席だと定期会員のセット券の単価と変わらず2円、B席だと割高で1円50銭だった。それがローゼンシュトックのショスタ

コーヴィチで始まったシーズンから、定期会員券がA席だと1回あたり2円50銭、B席だと同じく1円50銭、非会員の1回券は2円50銭と2円に上がった。それが翌年4月20日に、ローゼンシュトック指揮によるチャイコフスキーの《幻想序曲「ロメオとジュリエット」》、井口基成の独奏するラヴェルの《ピアノ協奏曲》、ドビュッシー《イベリア》、デュカス《魔法使いの弟子》で始まったシーズンからは、「支那事变特別税」が反映されて、定期会員券の単価がA席だと2円75銭、B席だと1円65銭となり、1回券は3円30銭と2円20銭と、えらく割高になった。戦争のせいであらう。わずか数か月にしてこれだけ上がった。後の値段にもここでふれば、太平洋戦争中には、定期会員券のA席とB席の1回あたりの価格、非会員の1回券のA席とB席という、同じ順番で値段を並べると、4円、2円40銭、5円70銭、3円20銭まで行く。日中戦争前と比べると2倍から3倍くらい。戦時インフレというものである。

### 平明・健康・力強さ ——時局下のオーケストラに求められたもの

だが戦争の影響はチケット代のことばかりではない。音楽に対する国家的・社会的要求が高まってくる。あるいは求められる質が変わってくる。たとえば、日中戦争が開始されてまだ日の浅い1937(昭和12)年10月、音楽評論家、しおりのりかめすけ鹽入亀輔は国民新聞紙上で次のように述べた。「私が今日要求したい軍歌は集団として歌ふに適する明朗なものである。一体に軍歌の効用は戦場にある兵士諸君の士気を鼓舞すると云ふ事よりも、銃後にある国民全体の感情を統一する所に最もよく発揮される。戦場にある兵士諸君は日夜敵陣を前にして緊張し続けている。しかし銃後にある国民はとすると緊張

から遊びの気分に流れようとする。その国民の感情を常に時局に直面せしめ、心からなる応援を前線の兵士諸君に送るならばそれに優[まさ]る慰問、激励は無いであらう。その国民感情の統一高揚の為に、国民歌としての広さを持つ軍歌を我々は今日要求したのである」。

鹽入は具体例を出す。ナチスの党歌に触れる。それは平易で熱烈で<sup>かつたつ</sup>闊達なマーチング・ソングだ。「ヒトラー自身音楽に理解を持つてゐるせいかも知れないが、彼はその政治行動の先頭に常にホルスト・ウエツセルのナチス党歌を響かせて進んだのであつた。その党歌は極めて平明なもので、妙な俗曲<sup>ろう</sup>にありがちな技巧等弄しない云わば健康そのものとも云ふべきものの、独唱するよりも合唱する事によって力強さが現れてくるやうな歌である。それこそ堂々たる歩調を思はせるものだ」。音楽は明快で力強く、個人的想念よりも集団的感情を表すべきであり、しかも否定的であるよりも肯定的でなければならない。この理屈を鹽入は、1937年秋の段階ではあくまで「軍歌」に限って説いているのだが、この発想が芸術音楽を含む文化芸術全体に及んでゆくのが日中戦争当初から1945(昭和20)年の敗戦までの日本なのだ。

職場や学校で合唱運動が推進され戦後につながるのも、日本放送協会の『みんなのうた』の大本になる番組『国民歌謡』が独唱を排して合唱に特化した『国民合唱』に変じてゆくのも、鹽入の示した考え方をなぞるものだ。オーケストラのコンサートの曲目編成や芸術音楽の畑の作曲家の創作態度も、「平明」や「健康」や「力強さ」がどれだけのかがわれるかがわれないかで、だんだん計られてゆくようになる。ローゼンシュトックは太平洋戦争が始まってから定期公演でチャイコフスキーの《交響曲第6番》を取り上げようとして、音楽関係を所管する内閣

情報局に止められるのだが、その理由は同曲のニックネームが「悲愴」であって、「平明」や「健康」や「力強さ」の対極にあると聴衆に感じさせる可能性があるから、というものであった。

## 戦時下の「海外」公演

だが、そうした戦争気分が、贅沢な楽しみを与えるオーケストラの活動を不要不急と退ける方向につながったかという、むしろ逆である。独唱や独奏は、なるほど個人主義的、自由主義的、高踏的な気分とつながりやすいかもしれないが、交響楽団はひとつの大集団であり、規律と統制があってよい演奏ができるものなのだから、ポジティブな音楽をポジティブに演奏するのであれば、総力戦体制作りを要求される時代に極めて適合的であり、軍人兵士や軍需産業に就く労働者にも強い励まし、あるいは適切な慰安を与えるし、対外的にも国威発揚のために不可欠と観念され、擁護されていった面がある。

特に日本放送協会と一体的関係にあり、その意味で準国立的オーケストラと呼ばれうる新交響楽団は、「国民感情の統一高揚」を果たし得る有効な媒体と期待され、敗戦まで忙しく活動し続けた。戦時と直接かかわる演奏会としては盧溝橋事件の翌月の8月12日に、恤兵演奏会（前線の兵士に慰問品を送るための義援金集めコンサートと考えてもらえればよいだろう）を開き、齋藤秀雄の指揮、鐵（ベルトラメリ）能子、長門美保、その他の独唱で、モーツァルトやワーグナーやヴェルディのオペラ・アリアの名曲プログラムを開催している。以後、新交響楽団はこの主の催事を繰

り返してゆく。

また、新交響楽団が初めて日本本土を離れてコンサートを開いたのも、こうした時局と関連してのことだ。1939（昭和14）年6月、新交響楽団は海を渡った。といっても行った先は当時、外地という呼ばれ方をしていたが、外国ではなかった。1910（明治43）年に日本に併合された朝鮮半島である。まさに「国民感情の統一高揚」を企図しての試みだった。京城（現ソウル）で3回の演奏会を催す。会場となった1800席の府民館は3度とも超満員。南は釜山、北は鴨緑江から聴衆が馳せ参じ、聴衆は大興奮であったという。1等席は5円だった。指揮は齋藤秀雄。ベートーヴェンの《田園》、シューベルトの《未完成》、ビゼーの《カルメン》からの組曲などが取り上げられた。

この好評を受けて、翌1940（昭和15）年の6月にも、新交響楽団は同じく京城で3回演奏した。今度はローゼンシュトックが付いていった。ベートーヴェンの《交響曲第5番》に、チャイコフスキーの《同第6番》、つまり《悲愴》。1940年に《悲愴》はまだOKだった。このあと新交響楽団は、NHK交響楽団となってから1960（昭和35）年に世界一周演奏旅行に出かけるまで、日本本土を離れることがなかった。戦争に戦後の混乱。20年間も外に出られなかった。

## 文 | 片山杜秀（かたやま もりひで）

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2024年11月1日付で水戸芸術館館長に就任。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』『大楽必易』ほか著書多数。

# 2025年4月定期公演のプログラムについて

## 公演企画担当者から

名誉指揮者パーヴォ・ヤルヴィが2年ぶりに登場。2015年から2022年にかけて首席指揮者を務めたパーヴォだが、最後の2年半はコロナ禍と重なり、計画していた15プログラムのうち、実現できたのはわずかに1プログラムだけだった。

プロコフィエフ《交響曲第4番》と《ペトルーシカ》は、どちらも首席指揮者在任中に取り上げる予定だった曲で、マエストロの思いを汲みでの再チャレンジとなる。

パーヴォ、ヴィオラの名手と共に奏でる、  
若者の彷徨を描いた2作

[Aプログラム]のプロコフィエフ《交響曲第4番》は、名興行師ディアギレフが手がけた最後のバレエ《放蕩息子》に由来する。聖書のエピソードに基づくこのバレエは、財産を使い果たして帰郷した息子を父親が温かく迎え入れるという内容で、父と息子の対面、息子を誘惑する美女のシーンが、それぞれ第2楽章と第3楽章に使われた。

今回の「1947年版」では、スコアが大幅に書き足され、ピアノやハープの追加により、音色もさらに豊かになった。特に第2楽章は、新たにモノローグ風のピアノ・ソロが挿入されたことで、もともと父の慈愛を表していた音楽に、

いっそうの奥行きが加わったように感じられる。

バイロンの長編詩を原作とする《イタリアのハロルド》も、諸国を遍歴する若者が主題である。イタリアを放浪する主人公に仮託して、ベルリオーズは自らの夢を音楽化した。

ヴィオラ・ソロの奏でる主題が、場面の転換に応じて次々と様相を変えていく。それらをいかに幅広い表現力で聴かせるかが、ソリストの腕の見せ所だ。

曲を依頼したバガニーニ同様、アントワーヌ・タメスティが名器ストラディヴァリウスを駆使して、鮮やかな解釈を聴かせてくれることだろう。

パーヴォの切れ味鋭いタクトが  
躍動感をもたらす《ペトルーシカ》

[Bプログラム]のストラヴィンスキー《ペトルーシカ》も、ディアギレフ率いるロシア・バレエ団のために作曲された。ただしこちらはバレエ団の旗揚げから間もない1911年の作品である。つまり4月の2つのプログラムは、20世紀前半の音楽史に大きな影響を与えたロシア・バレエ団の、始まりと終わりに焦点を当てた内容となっている。

ロシアの謝肉祭の市場で、魔術師に命を吹き込まれた人形たちが繰り広げる愛憎劇。主人公のペトルーシカは、バレリーナに恋する

が、その思いは彼女に届かず、ついには恋敵のムーア人に殺されてしまう。

振幅の大きいリズムやダイナミクスを的確に描き分けるには、優れたバトンテクニックが必要とされる。N響ゆかりの指揮者では、前身の新交響楽団とともに日本初演を手がけたローゼンストックや、名誉音楽監督デュトワがこの曲を得意とし、繰り返し演奏してきた。パーヴォの切れ味鋭いタクトによって、躍動感あふれる音楽が生み出されるだろう。

続くブリテン《ピアノ協奏曲》は、トッカータ、ワルツ、即興曲、行進曲と題された4つの楽章からなっている。ワルツは《ペトルーシカ》に、行進曲は《3つのオレンジへの恋》にも含まれるので、両曲のブリッジとなることも企図しての選曲である。

ベンジャミン・グローヴナーは2011年、史上

最年少でBBCプロムスのソリストに<sup>ばってき</sup>抜擢されたが、その時に弾いたのがこの曲だった。以来、プロムスの常連となったグローヴナーは、2020年にショスタコーヴィチ《ピアノ協奏曲第1番》でパーヴォと共演している。今回も刺激に満ちたコンビとなることだろう。

プロコフィエフ《交響組曲「3つのオレンジへの恋」》は、<sup>ぐうわ</sup>寓話的な物語のオペラから6曲を抜粋したもので、第3曲の《行進曲》が特によく知られている。全部で15分程度と短めではあるが、それぞれの曲が変化に富んでいて、聴きごたえ十分。ロシアの舞台音楽という点で《ペトルーシカ》とも共通するので、最後にこの曲を置くことにした。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

**A** 4/12<sup>土</sup> 6:00pm  
4/13<sup>日</sup> 2:00pm

NHKホール

ベルリオーズ／交響曲「イタリアのハロルド」\*  
プロコフィエフ／交響曲 第4番 ハ長調 作品112(改訂版／1947年)  
指揮：パーヴォ・ヤルヴィ  
ヴィオラ：アントワーン・タメスティ\*



**B** 4/17<sup>木</sup> 7:00pm  
4/18<sup>金</sup> 7:00pm

サントリーホール

ストラヴィンスキー／バレエ音楽「ペトルーシカ」(全曲／1947年版)  
ブリテン／ピアノ協奏曲 作品13  
プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis  
指揮：パーヴォ・ヤルヴィ  
ピアノ：ベンジャミン・グローヴナー(ブリテン)  
ピアノ：松田華音(ストラヴィンスキー)



**C**

4月Cプログラムはヨーロッパ公演のため休止させていただきます

チケットのご案内(定期公演 2024年9月～2025年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

|                         |                       |                                           |
|-------------------------|-----------------------|-------------------------------------------|
| 発売開始日<br>(10:00amからの受付) | 年間会員券、シーズン会員券(Autumn) | 2024年7月7日[日](定期会員先行)／2024年7月15日[月・祝](一般)  |
|                         | シーズン会員券(Winter)       | 2024年10月10日[木](定期会員先行)／2024年10月15日[火](一般) |
|                         | シーズン会員券(Spring)       | 2025年2月13日[木](定期会員先行)／2025年2月19日[水](一般)   |

料金(税込)

| 年間会員券      |         | S                | A               | B               | C               | D               |
|------------|---------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| Aプログラム(9回) | 一般      | ¥76,500(¥8,500)  | ¥65,025(¥7,225) | ¥49,725(¥5,525) | ¥41,310(¥4,590) | ¥32,895(¥3,655) |
|            | ユースチケット | ¥38,250(¥4,250)  | ¥30,600(¥3,400) | ¥23,715(¥2,635) | ¥19,503(¥2,167) | ¥11,475(¥1,275) |
| Bプログラム(9回) | 一般      | ¥91,800(¥10,200) | ¥76,500(¥8,500) | ¥61,200(¥6,800) | ¥49,725(¥5,525) | ¥42,075(¥4,675) |
|            | ユースチケット | ¥45,900(¥5,100)  | ¥38,250(¥4,250) | ¥30,600(¥3,400) | ¥24,858(¥2,762) | ¥21,033(¥2,337) |
| Cプログラム(8回) | 一般      | ¥68,000(¥8,500)  | ¥57,800(¥7,225) | ¥44,200(¥5,525) | ¥36,720(¥4,590) | ¥29,240(¥3,655) |
|            | ユースチケット | ¥34,000(¥4,250)  | ¥27,200(¥3,400) | ¥21,080(¥2,635) | ¥17,336(¥2,167) | ¥10,200(¥1,275) |

| シーズン会員券                                     |         | S               | A               | B               | C               | D               |
|---------------------------------------------|---------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| Aプログラム(3回)<br>Cプログラム<br>[Autumn/Winter](3回) | 一般      | ¥26,850(¥8,950) | ¥22,824(¥7,608) | ¥17,454(¥5,818) | ¥14,499(¥4,833) | ¥11,547(¥3,849) |
|                                             | ユースチケット | ¥13,425(¥4,475) | ¥10,740(¥3,580) | ¥8,325(¥2,775)  | ¥6,849(¥2,283)  | ¥4,029(¥1,343)  |
| Cプログラム [Spring]<br>(2回)                     | 一般      | ¥17,900(¥8,950) | ¥15,216(¥7,608) | ¥11,636(¥5,818) | ¥9,666(¥4,833)  | ¥7,698(¥3,849)  |
|                                             | ユースチケット | ¥8,950(¥4,475)  | ¥7,160(¥3,580)  | ¥5,550(¥2,775)  | ¥4,566(¥2,283)  | ¥2,686(¥1,343)  |

( )内は1公演あたりの単価  
※本シーズンよりD席のみ設定されていた「ユースチケット会員券」を、全席種(S～D)に拡大しました。  
※本シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

|                         |          |                                           |
|-------------------------|----------|-------------------------------------------|
| 発売開始日<br>(10:00amからの受付) | 9・10・11月 | 2024年7月31日[水](定期会員先行)／2024年8月4日[日](一般)    |
|                         | 12・1・2月  | 2024年10月17日[木](定期会員先行)／2024年10月23日[水](一般) |
|                         | 4・5・6月   | 2025年2月26日[水](定期会員先行)／2025年3月2日[日](一般)    |

※本シーズンより1回券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

ユースチケット

N響では、若い世代の方にオーケストラを身近に感じていただくことを願って、お得な「ユースチケット」を設けています。  
詳しくはN響ホームページをご覧ください。※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。

ユース世代の方へのお得なチケットが、さらに使いやすく！

対象年齢を拡大  
2024年7月の主催公演から対象年齢を「29歳以下」に拡大しました

定期会員券の対象席種を拡大  
「S席～D席の全席種」に拡大しました

お申し込み

WEBチケットN響  
https://nhkso.pia.jp



N響ガイド | TEL 0570-02-9502  
営業時間：10:00am～5:00pm/定休日：土・日・祝日  
●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業  
●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業 ●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。  
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

# 「WEBチケットN響」「N響ガイド」 サービス手数料改定のお知らせ

これまで「WEBチケットN響」ならびに「N響ガイド」では、NHK交響楽団公演のチケット販売に際して可能な限りお客様のご負担が少なくなるよう各種手数料の価格維持に努めてまいりましたが、情報セキュリティにおける脅威への対策強化やサービスに従事する人件費の高騰など社会的経済環境の大きな変化を受けまして、2025年4月1日のご購入分よりチケット販売にかかわるサービス手数料を一部改定させていただきます。

お客様におかれましてはご負担をおかけすることとなり誠に恐縮でございますが、今後も安定したサービスの提供と運営業務の効率化に取り組んでまいりますので、何卒ご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

## 改定日時

公演日にかかわらず、以下の日時以降のご購入分が改定の対象となります。

- ・WEBチケットN響:2025年4月1日(火) 早朝の定期メンテナンス終了後のご購入分より
- ・N響ガイド(電話):2025年4月1日(火) 10:00以降のご購入分より

## 改定後のサービス手数料 | 全て消費税を含みます

### 定期会員券(継続・席替え・会員先行発売期間)▶変更ございません

| 決済方法      | 引取方法         | 決済手数料 | 発券手数料 | 配送手数料 |
|-----------|--------------|-------|-------|-------|
| 払込票／口座振替※ |              |       |       |       |
| クレジットカード  | 配送<br>(簡易書留) | 無料    | 無料    | 無料    |
| セブン-イレブン  |              |       |       |       |
| ファミリーマート  |              |       |       |       |

※「払込票／口座振替」は継続手続き期間中のみご利用可。口座振替は現在ご利用中の方のみの取り扱い(新規のお申し込みは受付していません)。

### 定期会員券(一般発売以降)

| 決済方法     | 引取方法     | 決済手数料                 | 発券手数料 | 配送手数料                 |
|----------|----------|-----------------------|-------|-----------------------|
| クレジットカード | セブン-イレブン | 無料                    | 無料    | —                     |
|          | ファミリーマート |                       |       | —                     |
|          | 配送(簡易書留) |                       | —     | 880円/件<br>(現行:550円/件) |
| セブン-イレブン | セブン-イレブン | 330円/件<br>(現行:220円/件) | 無料    | —                     |
| ファミリーマート | ファミリーマート |                       |       |                       |

電話でのご購入の場合は、上記と別に「電話申し込み手数料」として550円/件を頂戴します。(現行:無料)

### 1回券

| 決済方法     | 引取方法         | 決済手数料                 | 発券手数料             | 配送手数料                 |
|----------|--------------|-----------------------|-------------------|-----------------------|
| クレジットカード | セブン-イレブン     | 無料                    | 132円/枚<br>(現行:無料) | —                     |
|          | ファミリーマート     |                       |                   | —                     |
|          | eチケット(WEBのみ) |                       | —                 | 880円/件<br>(現行:550円/件) |
|          | 配送(簡易書留)     |                       |                   | —                     |
| セブン-イレブン | セブン-イレブン     | 330円/件<br>(現行:220円/件) | 132円/枚<br>(現行:無料) | —                     |
| ファミリーマート | ファミリーマート     |                       |                   |                       |

電話でのご購入の場合は、上記と別に「電話申し込み手数料」として550円/件を頂戴します。(現行:無料)

# 2024-25定期公演プログラム

|            |   |                                                        |                                                                                                                                                                                                      |                                                                               |                                                                                 |
|------------|---|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 2025<br>04 | A | 第2034回<br>4/12土 6:00pm<br>4/13日 2:00pm<br><br>NHKホール   | ベルリオーズとプロコフィエフ 通底するテーマは「さすらい人」<br>ベルリオーズ／交響曲「イタリヤのハロルド」*<br>プロコフィエフ／交響曲 第4番 ハ長調 作品112(改訂版／1947年)<br><br>指揮:バーヴォ・ヤルヴィ<br>ヴィオラ:アントワヌ・タメスティ*                                                            | 一般<br>S ¥11,000<br>A ¥9,500<br>B ¥7,600<br>C ¥6,000<br>D ¥5,000<br>E ¥3,000   | ユースチケット<br>S ¥5,500<br>A ¥4,500<br>B ¥3,500<br>C ¥2,800<br>D ¥1,800<br>E ¥1,400 |
|            | B | 第2035回<br>4/17木 7:00pm<br>4/18金 7:00pm<br><br>サントリーホール | 《春の祭典》に続きバーヴォ&N響が贈る<br>ストラヴィンスキー三大バレエ第2弾<br>ストラヴィンスキー／バレエ音楽「ペトルーシカ」(全曲／1947年版)<br>ブリテン／ピアノ協奏曲 作品13<br>プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis<br><br>指揮:バーヴォ・ヤルヴィ<br>ピアノ:ベンジャミン・グローヴナー(ブリテン)、松田華音(ストラヴィンスキー) | 一般<br>S ¥12,000<br>A ¥10,000<br>B ¥8,000<br>C ¥6,500<br>D ¥5,500              | ユースチケット<br>S ¥6,000<br>A ¥5,000<br>B ¥4,000<br>C ¥3,250<br>D ¥2,750             |
|            | C | 4月Cプログラムはヨーロッパ公演のため休止させていただきます                         |                                                                                                                                                                                                      |                                                                               |                                                                                 |
| 2025<br>05 | A | 第2036回<br>4/26土 6:00pm<br>4/27日 2:00pm<br><br>NHKホール   | ヨーロッパ公演に先駆け 勝負曲を定期公演で披露<br>N響ヨーロッパ公演2025 プログラム<br>マーラー／交響曲 第3番 二短調<br><br>指揮:ファビオ・ルイージ メゾ・ソプラノ:オレシア・ペトロヴァ<br>女声合唱:東京オペラシンガーズ 児童合唱:NHK東京児童合唱団                                                         | 一般<br>S ¥15,000<br>A ¥12,500<br>B ¥10,000<br>C ¥8,000<br>D ¥6,500<br>E ¥4,500 | ユースチケット<br>S ¥7,000<br>A ¥6,000<br>B ¥5,000<br>C ¥4,000<br>D ¥3,000<br>E ¥2,000 |
|            | B | 第2037回<br>5/1木 7:00pm<br>5/2金 7:00pm<br><br>サントリーホール   | 軋みあう“生と死”を克服し その彼方の光へ<br>N響ヨーロッパ公演2025 プログラム<br>ベルク／ヴァイオリン協奏曲<br>マーラー／交響曲 第4番 ト長調*<br>指揮:ファビオ・ルイージ<br>ヴァイオリン:諏訪内晶子 ソプラノ:森 麻季*                                                                        | 一般<br>S ¥12,000<br>A ¥10,000<br>B ¥8,000<br>C ¥6,500<br>D ¥5,500              | ユースチケット<br>S ¥6,000<br>A ¥5,000<br>B ¥4,000<br>C ¥3,250<br>D ¥2,750             |
|            | C | 第2038回<br>5/30金 7:00pm<br>5/31土 2:00pm<br><br>NHKホール   | オペラ指揮者シュレキーテのR. シュトラウス!<br>N響定期初登場、藤田真央にも注目!<br>シュベルト／「ロザムンデ」序曲<br>ドホナーニ／童謡(きらきら星)の主題による変奏曲 作品25*<br>R. シュトラウス／歌劇「影のない女」による交響的幻想曲<br>R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲<br>指揮:キエドレ・シュレキーテ ピアノ:藤田真央*               | 一般<br>S ¥10,000<br>A ¥8,500<br>B ¥6,500<br>C ¥5,400<br>D ¥4,300<br>E ¥2,200   | ユースチケット<br>S ¥5,000<br>A ¥4,000<br>B ¥3,100<br>C ¥2,550<br>D ¥1,500<br>E ¥1,000 |
| 2025<br>06 | A | 第2039回<br>6/7土 6:00pm<br>6/8日 2:00pm<br><br>NHKホール     | 巨匠が魂を込めて振る チャイコフスキー最後の交響曲<br>リムスキー・コルサコフ／歌劇「5月の夜」序曲<br>ラフマニノフ／バガニニの主題による狂詩曲 作品43*<br>チャイコフスキー／交響曲 第6番 口短調 作品74「悲愴」<br>指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ<br>ピアノ:ユリアンナ・アヴデーエワ*                                        | 一般<br>S ¥10,000<br>A ¥8,500<br>B ¥6,500<br>C ¥5,400<br>D ¥4,300<br>E ¥2,200   | ユースチケット<br>S ¥5,000<br>A ¥4,000<br>B ¥3,100<br>C ¥2,550<br>D ¥1,500<br>E ¥1,000 |
|            | B | 第2040回<br>6/12木 7:00pm<br>6/13金 7:00pm<br><br>サントリーホール | チェリビダッケの直弟子 メナのブルックナー《第6番》<br>イベール／フルート協奏曲<br>ブルックナー／交響曲 第6番 イ長調<br><br>指揮:フアンホ・メナ<br>フルート:カール・ハインツ・シュッツ                                                                                             | 一般<br>S ¥12,000<br>A ¥10,000<br>B ¥8,000<br>C ¥6,500<br>D ¥5,500              | ユースチケット<br>S ¥6,000<br>A ¥5,000<br>B ¥4,000<br>C ¥3,250<br>D ¥2,750             |
|            | C | 第2041回<br>6/20金 7:00pm<br>6/21土 2:00pm<br><br>NHKホール   | 2000年生まれの超新星 ベルトコススキのマーラー《巨人》<br>コルンゴルト／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35<br>マーラー／交響曲 第1番 二長調「巨人」<br><br>指揮:タルモ・ベルトコススキ<br>ヴァイオリン:ダニエル・ロザコヴィッチ                                                                      | 一般<br>S ¥10,000<br>A ¥8,500<br>B ¥6,500<br>C ¥5,400<br>D ¥4,300<br>E ¥2,200   | ユースチケット<br>S ¥5,000<br>A ¥4,000<br>B ¥3,100<br>C ¥2,550<br>D ¥1,500<br>E ¥1,000 |

(料金はすべて税込)

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

# 速報 2025-26定期公演プログラム(2025年9月~2026年6月)

|            |   |                                                            |                                                                                                                                                                                            |
|------------|---|------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2025<br>09 | A | 第2042回<br>9/13 土 6:00pm<br>9/14 日 2:00pm<br><br>NHKホール     | シーズン開幕に満を持して臨む ルイージのライフワーク<br>ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」<br>ブラント・シュミット／交響曲 第4番 ハ長調<br><br>指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:イェフィム・ブロンフマン                                                              |
|            | B | 第2043回<br>9/18 木 7:00pm<br>9/19 金 7:00pm<br><br>サントリーホール   | ルイージが浮き彫りにする《イタリア》に刻まれた「光と陰」<br>武満 徹／3つの映画音楽<br>ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品61<br>メンデルスゾーン／交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」<br><br>指揮:ファビオ・ルイージ ヴァイオリン:マリア・ドゥエニャス                                        |
|            | C | 第2044回<br>9/26 金 7:00pm<br>9/27 土 2:00pm<br><br>NHKホール     | 欧米メジャーオケを席巻する 情熱の指揮者がN響初登場<br>マーラー／こどもの不思議な角笛―「ラインの伝説」*「トランペットが美しく鳴り響くところ」*<br>「浮世の生活」*「天上の生活」*「原光」*<br>シベリウス／交響詩「4つの伝説」作品22<br><br>指揮:ライアン・バンクロフト バリトン:トマス・ハンブソン*                         |
| 2025<br>10 | A | 第2046回<br>10/18 土 6:00pm<br>10/19 日 2:00pm<br><br>NHKホール   | マエストロが祈りを込めて贈る 2つの合唱付き交響曲<br>ストラヴィンスキー／詩篇交響曲<br>メンデルスゾーン／交響曲 第2番 変ロ長調 作品52「讃歌」*<br>指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット<br>ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー* メゾ・ソプラノ:マリー・ヘンリエット・ラインホルト*<br>テノール:ティルマン・リヒディ* 合唱:スウェーデン放送合唱団 |
|            | B | 第2045回<br>10/9 木 7:00pm<br>10/10 金 7:00pm<br><br>サントリーホール  | ブロムシュテットが惹き込む 気品に満ちた北欧の傑作たち<br>グリーグ／組曲「ホルベアの時代から」作品40<br>ニルセン／フルート協奏曲<br>シベリウス／交響曲 第5番 変ホ長調 作品82<br><br>指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット フルート:セバスティアン・ジャコー                                                |
|            | C | 第2047回<br>10/24 金 7:00pm<br>10/25 土 2:00pm<br><br>NHKホール   | 巨匠と名ピアニストの飽くなき探究心が拓く 新たなブラームスの地平<br>ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83<br>ブラームス／交響曲 第3番 へ長調 作品90<br><br>指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット ピアノ:レイフ・オヴェ・アンズネス                                                        |
| 2025<br>11 | A | 第2048回<br>11/8 土 6:00pm<br>11/9 日 2:00pm<br><br>NHKホール     | デュトワ、十八番のメシアンとホルストを携え 8年振りに定期公演に登場<br>メシアン／神の現存の3つの小典礼*<br>ホルスト／組曲「惑星」作品32<br><br>指揮:シャルル・デュトワ<br>ピアノ:小菅 優* オンド・マルトノ:大矢素子* 女声合唱:東京オペラシンガーズ                                                 |
|            | B | 第2050回<br>11/20 木 7:00pm<br>11/21 金 7:00pm<br><br>サントリーホール | 大きく羽ばたく俊英が 得意のドイツ・プログラムで再登場<br>シューマン／「マンフレッド」序曲<br>モーツァルト／ピアノ協奏曲 第25番 ハ長調 K. 503<br>R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40<br><br>指揮:ラファエル・バヤーレ ピアノ:エマヌエル・アックス                                           |
|            | C | 第2049回<br>11/14 金 7:00pm<br>11/15 土 2:00pm<br><br>NHKホール   | ラヴェル生誕150年<br>当世随一の解釈者のタクトで ラヴェルを味わい尽くす<br>ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ<br>ラヴェル／組曲「クープランの墓」<br>ラヴェル／バレエ音楽「ダフニスとクロエ」(全曲)*<br>指揮:シャルル・デュトワ 合唱:二期会合唱団*                                                  |

2025  
12

|   |          |                                    |                                                                                                                                             |
|---|----------|------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A | 第2051回   | 11/29(土) 6:00pm<br>11/30(日) 2:00pm | ショスタコーヴィチ、そして《人魚姫》を聞く アイデンティティ崩壊と蘇生の物語<br>ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77<br>ツェムリンスキー／交響詩「人魚姫」                                             |
|   | NHKホール   | ※12月定期公演Aプログラムは<br>11月に開催いたします。    | 指揮:ファビオ・ルイージ ヴァイオリン:レオニダス・カヴァコス                                                                                                             |
| B | 第2052回   | 12/4(木) 7:00pm<br>12/5(金) 7:00pm   | オーケストラの絢爛な響きを サントリーホールの大オルガンと共に体感する<br>藤倉 大／管弦楽のためのオーシャン・プレイカー(2025) [NHK交響楽団委嘱作品／世界初演]<br>フランク／交響的変奏曲*<br>サン・サーンス／交響曲 第3番 ハ短調 作品78「オルガンつき」 |
|   | サントリーホール |                                    | 指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:トム・ボロー*                                                                                                                    |
| C | 第2053回   | 12/12(金) 7:00pm<br>12/13(土) 2:00pm | ニルセン最高峰の交響曲を ルイージ入魂の指揮で味わう<br>ショパン／ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11 または第2番 ヘ短調 作品21<br>ニルセン／交響曲 第4番 作品29「不滅」                                             |
|   | NHKホール   |                                    | 指揮:ファビオ・ルイージ<br>ピアノ:第19回ショパン国際ピアノコンクール優勝者                                                                                                   |

2026  
01

|   |          |                                  |                                                                                                                                                     |
|---|----------|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A | 第2054回   | 1/17(土) 6:00pm<br>1/18(日) 2:00pm | ソヒエフ、満を持してN響でマーラーを初披露<br>マーラー／交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」                                                                                                      |
|   | NHKホール   |                                  | 指揮:トゥガン・ソヒエフ                                                                                                                                        |
| B | 第2056回   | 1/29(木) 7:00pm<br>1/30(金) 7:00pm | ソヒエフ、お家芸のプロコフィエフ《第5番》を13年振りにN響で指揮<br>ムソルグスキー(ショスタコーヴィチ編)／歌劇「ホヴァンシチナ」—前奏曲「モスクワ川の夜明け」<br>ショスタコーヴィチ／ピアノ協奏曲 第2番 へ長調 作品102<br>プロコフィエフ／交響曲 第5番 変ロ長調 作品100 |
|   | サントリーホール |                                  | 指揮:トゥガン・ソヒエフ ピアノ:松田華音                                                                                                                               |
| C | 第2055回   | 1/23(金) 7:00pm<br>1/24(土) 2:00pm | 夢幻と高揚に誘う フランス・ロシアのナラティブな作品たち<br>ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲<br>デュティユー／チェロ協奏曲「遙かなる遠い国へ」<br>リムスキー・コルサコフ／組曲「サルタン皇帝の物語」作品57<br>ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)       |
|   | NHKホール   |                                  | 指揮:トゥガン・ソヒエフ チェロ:上野通明                                                                                                                               |

2026  
02

|   |          |                                  |                                                                                                                                 |
|---|----------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A | 第2057回   | 2/7(土) 6:00pm<br>2/8(日) 2:00pm   | 名門歌劇場で存在感を放つ ジョルダンのワーグナー<br>シューマン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」<br>ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」—「ジークフリートのラインの旅」<br>「ジークフリートの葬送行進曲」「ブリュンヒルデの自己犠牲」* |
|   | NHKホール   |                                  | 指揮:フィリップ・ジョルダン ソプラノ:タマラ・ウィルソン*                                                                                                  |
| B | 第2059回   | 2/19(木) 7:00pm<br>2/20(金) 7:00pm | 待望の再登場! フルシャのドヴォルザーク&ブラームス<br>ドヴォルザーク／ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53<br>ブラームス／セレナード 第1番 二長調 作品11                                            |
|   | サントリーホール |                                  | 指揮:ヤクブ・フルシャ ヴァイオリン:ヨゼフ・シュバチェク                                                                                                   |
| C | 第2058回   | 2/13(金) 7:00pm<br>2/14(土) 2:00pm | 創立100年に問う N響設立者・近衛の《展覧会の絵》<br>コダーイ／ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲<br>フンメル／トランペット協奏曲 ホ長調<br>ムソルグスキー(近衛秀麿編)／組曲「展覧会の絵」                        |
|   | NHKホール   |                                  | 指揮:ゲルゲイ・マダラシュ トランペット:菊本和昭(N響首席トランペット奏者)                                                                                         |

| A NHKホール                                   |   | B サントリーホール                                                                                                                                                       |  | C NHKホール                                   |  |
|--------------------------------------------|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--------------------------------------------|--|
| 📺 開場5:00pm 開演6:00pm<br>📺 開場1:00pm 開演2:00pm |   | 📺 開場6:20pm 開演7:00pm<br>📺 開場6:20pm 開演7:00pm                                                                                                                       |  | 📺 開場6:00pm 開演7:00pm<br>📺 開場1:00pm 開演2:00pm |  |
| 2026<br>04                                 | A | ブルックナーの絶筆に 孤高の中に屹立する精神を見る<br>ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1<br>ブルックナー／交響曲 第9番 二短調<br>指揮:ファビオ・ルイージ チェロ:ヤン・フォークラー                                                 |  |                                            |  |
|                                            | B | モーツァルトとマーラーに通底する 絶対美の深淵に触れる<br>モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622<br>マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調<br>指揮:ファビオ・ルイージ クラリネット:松本健司 (N響首席クラリネット奏者)                                       |  |                                            |  |
|                                            | C | 下野がナビゲートする20世紀日本名曲の旅<br>外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント<br>プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26<br>伊福部 昭／交響譚詩<br>プリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」―「4つの海の間奏曲」作品33a<br>指揮:下野竜也 ピアノ:反田恭平           |  |                                            |  |
| 2026<br>05                                 | A | ドイツ音楽の深い洞察者と奏でるブラームス・プログラム<br>ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102<br>ブラームス(シェーンベルク編)／ピアノ四重奏曲 第1番ト短調 作品25<br>指揮:ミハエル・ザンデルリンク<br>ヴァイオリン:クリスティアン・テツラフ チェロ:ターニャ・テツラフ |  |                                            |  |
|                                            | B | 「ヤマカズ21」とたどる元祖ヤマカズの世界 そして1930年代の日独作品の諸相<br>山田一雄／小交響詩「若者のうたへる歌」<br>ハルトマン／葬送協奏曲*<br>須賀田礪太郎／交響的序曲 作品6<br>ヒンデミット／交響曲「画家マチス」<br>指揮:山田和樹 ヴァイオリン:キム・スーヤン*               |  |                                            |  |
|                                            | C | 旧ソ連・ラトビア出身の気鋭が明らかにする 謎多きショスタコヴィチ(第4番)の真顔<br>ヴァスクス／NHK交響楽団ほか国際共同委嘱作品 [タイトル未定/日本初演]<br>ショスタコヴィチ／交響曲 第4番 ハ短調 作品43<br>指揮:アンドリス・ボーガ                                   |  |                                            |  |
| 2026<br>06                                 | A | ニューヨーク・フィルを率いたズヴェーデン 待望のN響初登場<br>ワグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲<br>モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番ト長調 K. 453<br>バルトーク／管弦楽のための協奏曲<br>指揮:ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン ピアノ:コンラッド・タオ             |  |                                            |  |
|                                            | B | ドゥナーヴが編む「夏」と「海」をめぐるフランス音楽名曲選<br>オネゲル／交響詩「夏の牧歌」<br>ベルリオーズ／歌曲集「夏の夜」作品7<br>イベール／寄港地<br>ドビュッシー／交響詩「海」<br>指揮:ステファヌ・ドゥナーヴ メゾ・ソプラノ:ガエル・アルケーズ                            |  |                                            |  |
|                                            | C | 尾高のリリズムと相性抜群の北国の名作たち HIMARI、N響定期に初登場<br>シベリウス／アンダンテ・フェスティエーヴォ<br>シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47<br>ラフマニノフ／交響曲 第3番 イ短調 作品44<br>指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:HIMARI                    |  |                                            |  |

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。  
※料金、発売日等チケットの詳細は2025年3月末に発表予定です。

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。  
 ※料金、発売日等チケットの詳細は2025年3月末に発表予定です。

# 特別公演

3/7<sup>金</sup> 7:00pm | 放送100年 N響大河ドラマ&名曲コンサート

東京オペラシティ コンサートホール

指揮:広上淳一 ヴァイオリン:三浦文彰\* 特別ゲスト:高橋英樹 司会:田添菜穂子

[第1部 大河ドラマ編]

青天を衝け(2021/佐藤直紀)

軍師官兵衛(2014/菅野祐悟)

麒麟がくる(2020/ジョン・グラム)

翔ぶが如く(1990/一柳 慧)

篤姫(2008/吉俣 良)

元禄太平記(1975/湯浅譲二)

草燃える(1979/湯浅譲二)

徳川慶喜(1998/湯浅譲二)

真田丸(2016/服部隆之)\*

べらぼう〜薦重栄華乃夢噺〜(2025/ジョン・グラム)

[第2部 「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]

バッハ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 BWV1041\*

ヘンデル(ハーティ編)/組曲「水上の音楽」―第1、3、4、6曲

ヨハン・シュトラウスII世/ワルツ「美しく青きドナウ」

グロフェ/組曲「ミシシッピ」―「マルディ・グラ」

料金(税込): 一般 | S席12,000円 A席10,000円 B席7,000円 C席5,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席6,000円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円

※B席、C席はステージの一部が見えづらい席となります。

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット完売

主催:NHK/NHK交響楽団 お問い合わせ:N響ガイド TEL (0570)02-9502

6/26(木) 7:00pm | Music Tomorrow 2025

東京オペラシティ コンサートホール

指揮:イェルク・ヴィトマン トランペット:ホーカン・ハーデンベルガー

第72回「尾高賞」受賞作品  
ヴィトマン／楽園へ(迷宮VI)―トランペットとオーケストラのための(2021) [日本初演]  
ほか

チケット発売日:N響定期会員先行発売 | 3月10日(月) 10:00am  
一般 | 3月13日(木) 10:00am

※料金等の詳細は2月下旬に発表予定です。N響ホームページでご確認ください。

主催:NHK／NHK交響楽団 共催:公益財団法人東京オペラシティ文化財団

6/29(日) 4:00pm | N響ウェルカム・コンサート

NHK ホール

指揮:平石章人 クラリネット:松本健司(N響首席クラリネット奏者) ナビゲーター:大林奈津子

ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲(6月Aプログラム)  
ツェムリンスキー／交響詩「人魚姫」―第2楽章(抜粋)(12月Aプログラム)  
グリーグ／組曲「ホルベアの時代から」―第3曲(10月Bプログラム)  
シベリウス／交響詩「4つの伝説」―第4曲(9月Cプログラム)  
モーツァルト／クラリネット協奏曲―第2楽章(4月Bプログラム)  
外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント―第3楽章(4月Cプログラム)  
ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)―「王女のロンド」(1月Cプログラム)  
ホルスト／組曲「惑星」―「木星」(11月Aプログラム)

チケット発売日:N響定期会員先行発売 | 3月10日(月) 10:00am  
一般 | 3月13日(木) 10:00am

※料金等の詳細は2月下旬に発表予定です。N響ホームページでご確認ください。

主催:NHK／NHK交響楽団

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間: 10:00am～5:00pm  
定休日: 土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に問わず10:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

## 各地の公演

---

### 2/26<sup>水</sup> 7:00pm | NHK交響楽団 in Ichikawa

---

#### 市川市文化会館

---

指揮:マルクス・ボシュナー ピアノ:小林愛実

ベートーヴェン／序曲「コリオラン」作品62

モーツァルト／ピアノ協奏曲 第9番 変ホ長調 K. 271

ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催:(公財)市川市文化振興財団 お問い合わせ:(公財)市川市文化振興財団 TEL(047)379-5111

---

### 2/27<sup>木</sup> 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 和歌山公演

---

#### 和歌山県民文化会館大ホール

---

出演者・曲目は2月26日と同じ

主催:和歌山県／(一財)和歌山県文化振興財団 お問い合わせ:和歌山県民文化会館 TEL(073)436-1331

---

### 3/1<sup>土</sup> 2:00pm | NHK交響楽団演奏会 高知公演

---

#### 高知県立県民文化ホール

---

出演者・曲目は2月26日と同じ

主催:NHK高知放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

---

### 3/2<sup>日</sup> 3:30pm | NHK交響楽団演奏会 高松公演

---

#### レクザムホール(香川県県民ホール)

---

出演者・曲目は2月26日と同じ

主催:NHK高松放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

---

### 3/3<sup>月</sup> 7:00pm | ユメニティのおがた開館25周年記念 NHK交響楽団 直方公演

---

#### ユメニティのおがた 大ホール

---

出演者・曲目は2月26日と同じ

主催:(公財)直方文化青少年協会 お問い合わせ:ユメニティのおがた TEL(0949)25-1007

3/8 3:00pm | NHK交響楽団 上田特別公演「大河ドラマ&名曲コンサート」

サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター 大ホール

指揮: 広上淳一 ヴァイオリン: 三浦文彰\* 司会: 田添菜穂子

青天を衝け(2021/佐藤直紀)

軍師官兵衛(2014/菅野祐悟)

麒麟がくる(2020/ジョン・グラム)

翔ぶが如く(1990/一柳 慧)

篤姫(2008/吉俣 良)

元禄太平記(1975/湯浅譲二)

草燃える(1979/湯浅譲二)

徳川慶喜(1998/湯浅譲二)

真田丸(2016/服部隆之)\*

べらぼう〜薦重栄華乃夢噺〜(2025/ジョン・グラム)

バッハ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 BWV1041\*

ヘンデル(ハーティ編)/組曲「水上の音楽」―第1、3、4、6曲

ヨハン・シュトラウスII世/ワルツ「美しく青きドナウ」

グロフェ/組曲「ミシシッピ」―「マルディ・グラ」

主催: 上田市(上田市交流文化芸術センター)/上田市教育委員会 お問い合わせ: サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター TEL (0268)27-2000

3/11 7:00pm

2025都民芸術フェスティバル参加公演

オーケストラ・シリーズ No.56 NHK交響楽団

すみだトリフォニーホール

指揮: 大友直人 ピアノ: 金子三勇士

スメタナ/交響詩「わが祖国」―「モルダウ」

リスト/ピアノ協奏曲 第2番 イ長調

ドヴォルザーク/交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」

主催・お問合せ: (公社)日本演奏連盟 TEL(03)3539-5131

3/27 3:00pm

東京・春・音楽祭2025 東京春祭ワグナー・シリーズ vol. 16

3/30 3:00pm

《パルジファル》(演奏会形式)

東京文化会館 大ホール

指揮: マレク・ヤノフスキ アムフォルタス: クリスティアン・ゲルハーヘル テイトウレル: 水島正樹

グルネマンツ: タレク・ナズミ パルジファル: ステュアート・スケルトン クリングゾル: シム・インスン

クンドリ: ターニャ・アリアーネ バウムガルトナー 第1の聖杯騎士: 大槻孝志 第2の聖杯騎士: 杉浦隆大

四人の小姓: 秋本悠希、金子美香、土崎 譲、谷口耕平

クリングゾルの魔法の乙女たち: 相原里美、今野沙知恵、杉山由紀、佐々木麻子、松田万美江、鳥谷尚子

アルトの声: 金子美香 合唱: 東京オペラシンガーズ

ワグナー/舞台神聖祝典劇「パルジファル」(全3幕) (演奏会形式/字幕付)

主催: 東京・春・音楽祭実行委員会 共催: NHK交響楽団 お問い合わせ: 東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050) 3496-0202

4/4 金 7:00pm

4/6 日 3:00pm

東京・春・音楽祭2025 東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.12

ベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》

東京文化会館 大ホール

指揮:マレク・ヤノフスキ ソプラノ:アドリアナ・ゴンザレス メゾ・ソプラノ:ターニャ・アリアーネ・バウムガルトナー  
テノール:ステュアート・スケルトン バス:タレク・ナズミ 合唱:東京オペラシンガーズ  
ベートーヴェン/ミサ・ソレムニス ニ長調 作品123

主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 お問い合わせ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050)3496-0202

5/5 月祝 5:00pm

NHK交響楽団

ファビオ・ルイージ[首席指揮者] リーズ・ドゥ・ラ・サール[ピアノ]

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:リーズ・ドゥ・ラ・サール

武満徹/3つの映画音楽

グリーグ/ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

ブラームス/交響曲 第4番 ホ短調 作品98

主催:(公財)所沢市文化振興事業団 お問い合わせ:ミューズチケットカウンター TEL(04)2998-7777

7/5 土 5:00pm

厚木市文化会館リニューアルオープン・厚木市制 70周年記念事業

NHK交響楽団 厚木公演

厚木市文化会館

指揮:川瀬賢太郎 バンドネオン:三浦一馬

マルケス/ダンソン 第2番

ピアソラ/バンドネオン協奏曲「アコンカグア」

ヒナステラ/バレエ組曲「エスタンシア」作品8a

バーンスタイン/「ウエスト・サイド・ストーリー」からシンフォニック・ダンス

主催:(公財)厚木市文化振興財団 お問い合わせ:厚木市文化会館チケット予約センター TEL(046)224-9999

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

4/20(日) 3:30pm

指揮: パーヴォ・ヤルヴィ    ピアノ: ベンジャミン・グローヴナー (ブリテン)、松田華音 (ストラヴィンスキー)  
ストラヴィンスキー／バレエ音楽「ベートルーシカ」(全曲／1947年版)  
ブリテン／ピアノ協奏曲 作品13  
プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis

7/6(日) 3:30pm

指揮: 川瀬賢太郎    バンドネオン: 三浦一馬  
マルケス／ダンソン 第2番  
ピアソラ／バンドネオン協奏曲「アコンカグア」  
ヒナステラ／バレエ組曲「エスタンシア」作品8a  
バーンスタイン／「ウエスト・サイド・ストーリー」からシンフォニック・ダンス  
主催・お問合せ: Bunkamura TEL (03) 3477-3244

# 海外公演

## ヨーロッパ公演2025 | 指揮：ファビオ・ルイーゼ(NHK交響楽団 首席指揮者)

|        |                                                         |                                                        |
|--------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| プログラムA | マーラー／交響曲 第3番 二短調                                        | メゾ・ソプラノ：オレシア・ベトロヴァ<br>女声合唱：オランダ放送合唱団<br>児童合唱：オランダ児童合唱団 |
| プログラムB | マーラー／歌曲集「こどもの不思議な角笛」から＊<br>マーラー／交響曲 第4番 ト長調 ＊＊          | バリトン：マティアス・ゲルネ＊<br>ソプラノ：イン・ファン＊                        |
| プログラムC | グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16<br>マーラー／交響曲 第4番 ト長調 ＊              | ピアノ：ルドルフ・ブフビンダー<br>ソプラノ：イン・ファン＊                        |
| プログラムD | 武満 徹／3つの映画音楽<br>ベルク／ヴァイオリン協奏曲<br>ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98 | ヴァイオリン：諏訪内晶子                                           |
| プログラムE | ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1<br>マーラー／交響曲 第4番 ト長調 ＊   | チェロ：ヤン・フォークラー<br>ソプラノ：イン・ファン＊                          |

|                                                        |                                 |
|--------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 2025 5/9金 8:00pm   アントワープ(ベルギー)                        | エリーザベト王妃ホール[プログラムC]             |
| 5/11日 8:15pm   アムステルダム(オランダ)<br>「マーラー・フェスティバル2025」参加公演 | コンセルトヘボウ 大ホール[プログラムA]           |
| 5/12月 8:15pm   アムステルダム(オランダ)<br>「マーラー・フェスティバル2025」参加公演 | コンセルトヘボウ 大ホール[プログラムB]           |
| 5/14水 7:30pm   ウィーン(オーストリア)                            | ウィーン・コンツェルトハウス 大ホール[プログラムC]     |
| 5/15木 8:00pm   ブラハ(チェコ)<br>「ブラハの春 音楽祭」参加公演             | ルドルフィヌム ドヴォルザーク・ホール[プログラムD]     |
| 5/17土 7:30pm   ドレスデン(ドイツ)<br>「ドレスデン音楽祭」参加公演            | 聖母教会[プログラムD]                    |
| 5/18日 6:00pm   ドレスデン(ドイツ)<br>「ドレスデン音楽祭」参加公演            | 文化宮殿 コンサートホール[プログラムE]           |
| 5/20火 7:30pm   インスブルック(オーストリア)                         | コンGRESS・インスブルック チロル・ホール[プログラムD] |

[協賛]

Iwatani

AISIN  
AISIN CORPORATION

JR-EAST

MITSUBISHI  
ESTATE

MIZUHO  
Mizuho Bank

## 曲目解説執筆者

小宮正安 (こみや まさやす)

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院・都市科学部教授。専門はヨーロッパ文化史、ドイツ文学。著書に『ベートーヴェン《第九》の世界』『リヒャルト・シュトラウス《ばらの騎士》(もっときわめる! 1曲1冊シリーズ)』『エリザベートと黄昏のハプスブルク帝国』、訳書に『ウィーン・フィルコンサートマスターの楽屋から』『チャールズ・バーニー音楽見聞録(ドイツ篇)』など。

松田 聡 (まつだ さとし)

大分大学教育学部教授。モーツァルトを中心とする古典派音楽が専門。著書に『モーツァルトのオペラ 全21作品の解説』『フィガロの結婚——モーツァルトの演劇的世界』、共訳書にニール・ザスロー他編『モーツァルト全作品事典』など。

安川智子 (やすかわ ともこ)

北里大学教授、東京藝術大学非常勤講師。博士(音楽学)。おもな研究領域は19世紀から20世紀初頭のフランス音楽および音楽理論史。共編著書に『ベートーヴェンと大衆文化』『ハーモニー探究の歴史——思想としての和声理論』、共著書に『オペラの時代』、訳書にフランソワ・ボルシル著『ベル・エポックの音楽家たち』など。

(五十音順、敬称略)

## N響の出演番組

定期公演や特別公演の様子が放送されるほか、大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

**クラシック音楽館**(N響定期公演ほか)

**Eテレ** 日曜9:00~11:00pm

**ベストオブクラシック**

**FM** 7:30~9:10pm

**N響演奏会**

**FM** 土曜4:00~5:50pm(不定期)

**クラシックTV**(クラシック全般の話題を取り上げます)

**Eテレ** 木曜9:00~9:30pm

月曜2:00~2:30pm(再放送)

これらの番組は放送終了後も「NHKプラス」(テレビ)や「らじる★らじる」(ラジオ)で1週間何度でもご視聴いただけます。出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

# Information

## 2025年4月からの コンサートマスター体制に ついて

NHK交響楽団では、2025年4月から長原幸太が新たに第1コンサートマスターに就任し、現・第1コンサートマスターの郷古廉、現・ゲスト・コンサートマスターの川崎洋介とともに、オーケストラをリードすることになりました。

なおすでにお知らせのとおり、篠崎史紀は2025年3月末をもって特別コンサートマスターを退任し、N響を退団します。

2026年の創立100年に向けて、新たなチャレンジを続けるNHK交響楽団の演奏活動に、引き続きご期待ください。

第1コンサートマスター（新任） | 長原幸太 | Kota Nagahara



広島県出身。5歳よりヴァイオリンを始める。東京藝術大学附属音楽高等学校を経て東京藝術大学入学。在学中、全額スカラシップを受けジュリアード音楽院へ留学。

13歳で第6回ヴェニツァフスキ国際ヴァイオリン・コンクール17歳以下の部第3位。17歳で第67回日本音楽コンクール最年少優勝、レウカディア賞、鷺見賞、黒柳賞を受賞。

12歳で東京交響楽団と共演し、以後国内の主要オーケストラ、故・小澤征爾、故・岩城宏之、秋山和慶、故・ゲルハルト・ボッセ等多くの名指揮者と共演。東京・春、宮崎国際、霧島国際など全国各地の音楽祭に出演し好評を博す。また海外からもアスペン音楽祭（アメリカ）、湖水地方音楽祭（イギリス）、ライデル音楽祭（イギリス）、香港国際音楽祭等に招かれ、リサイタル、協奏曲、室内楽で高い評価を受けた。

東京・春・音楽祭ではリカルド・ムーティ指揮の特別オーケストラでコンサートマスターも務めムーティから信頼を得る。

ひろしまフェニックス賞、メイプル賞（広島県教育委員会）、咲くやこの花賞（大阪市）、広島文化賞新人賞、第21回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞など、受賞多数。

2004年9月から2006年3月まで大阪フィルハーモニー交響楽団首席客演コンサートマスター、2006年4月から2012年3月まで大阪フィルハーモニー交響楽団首席コンサートマスター、2014年10月から2024年9月まで読売日本交響楽団コンサートマスターを務める。

ソリスト、室内楽奏者としても国内外で活躍中。洗足学園大学非常勤講師、各種セミナーの講師を務める等、後進の指導も行っている。

アンサンブル天下統一のメンバー。

2025年4月、NHK交響楽団の第1コンサートマスターに就任。

# 特別支援・特別協力・賛助会員

## Corporate Membership

### 特別支援

|                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 岩谷産業株式会社         | 代表取締役社長   間島 寛       |
| 三菱地所株式会社         | 執行役社長   中島 篤         |
| 株式会社 みずほ銀行       | 頭取   加藤勝彦            |
| 公益財団法人 渋谷育英会     | 理事長   小丸成洋           |
| 東日本旅客鉄道株式会社      | 代表取締役社長   喜勢陽一       |
| 東日本電信電話株式会社      | 代表取締役社長   澁谷直樹       |
| 東京海上ホールディングス株式会社 | 取締役社長 グループCEO   小宮 暁 |
| 株式会社ポケモン         | 代表取締役社長   石原恒和       |

### 特別協力

|           |                 |
|-----------|-----------------|
| BMW ジャパン  | 代表取締役社長   長谷川正敏 |
| 全日本空輸株式会社 | 代表取締役社長   井上慎一  |
| ヤマハ株式会社   | 代表執行役社長   山浦 敦  |
| びあ株式会社    | 代表取締役社長   矢内 廣  |

### 賛助会員

|                                            |                                        |                                       |
|--------------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------------------|
| ・ 常陸宮                                      | ・ 有限責任 あずさ監査法人<br>理事長   山田裕行           | ・ (株)インターネットイニシアティブ<br>代表取締役会長   鈴木幸一 |
| ・ (株)アートレイ<br>代表取締役   小森活美                 | ・ アットホーム(株)<br>代表取締役社長   鶴森康史          | ・ 内 聖美                                |
| ・ (株)アイシン<br>取締役社長   吉田守孝                  | ・ イーソリューションズ(株)<br>代表取締役社長   佐々木経世     | ・ 内山貴史                                |
| ・ (株)アインホールディングス<br>代表取締役社長   大谷喜一         | ・ EY新日本有限責任監査法人<br>理事長   片倉正美          | ・ SMBC日興証券(株)<br>代表取締役社長   吉岡秀二       |
| ・ 葵設備工事(株)<br>代表取締役社長   安藤正明               | ・ (株)井口一世<br>代表取締役   井口一世              | ・ SCSK(株)<br>代表取締役 執行役員 社長   當麻隆昭     |
| ・ (株)あ佳音<br>代表取締役社長   遠山信之                 | ・ 池上通信機(株)<br>代表取締役社長   清森洋祐           | ・ (株)NHK アート<br>代表取締役社長   平田恭佐        |
| ・ AXLBIT(株)<br>代表取締役   長谷川章博               | ・ (一財)ITOH<br>代表理事   伊東忠俊              | ・ NHK 営業サービス(株)<br>代表取締役社長   手島一宏     |
| ・ アサヒグループホールディングス(株)<br>代表取締役社長兼CEO   勝木敦志 | ・ 井村屋グループ(株)<br>取締役社長   大西安樹           | ・ (株)NHK エデュケーショナル<br>代表取締役社長   荒木美弥子 |
| ・ (株)朝日工業社<br>代表取締役社長   高須康有               | ・ (有)IL VIOLINO MAGICO<br>代表取締役   山下智之 | ・ (株)NHK エンタープライズ<br>代表取締役社長   有吉伸人   |
| ・ 朝日信用金庫<br>理事長   伊藤康博                     |                                        | ・ (学)NHK 学園<br>理事長   等々力 健            |

- ・(株)NHK グローバルメディアサービス  
代表取締役社長 | 神田真介
- ・(株)NHK出版  
代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株)NHK テクノロジーズ  
代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ  
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション  
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NTTドコモ  
代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株)NTTファシリティーズ  
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 宮田知秀
- ・荏原冷熱システム(株)  
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)  
代表取締役社長 | 吉本一心
- ・(株)エレクト  
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)  
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)  
代表取締役社長兼CEO | 井上 眞
- ・(株)大林組  
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)  
代表取締役社長 | 寺田 博
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)  
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)  
代表取締役 | 陰山正弘
- ・鹿島建設(株)  
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所  
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所  
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工  
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぽ生命保険  
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)  
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS  
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社  
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス  
代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館  
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社  
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)  
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学  
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
都村智史
- ・京成電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
小林敏也
- ・KDDI(株)  
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・(仮)社団 恒仁会  
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス  
代表執行役 | 服部正太
- ・(株)コーポレートディレクション  
代表取締役 | 小川達大
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)  
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)  
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ  
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション  
代表取締役社長 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)  
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマックス・ホールディングス  
代表取締役社長 | 太田 寛
- ・(株)ジャパン・アーツ  
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社  
代表取締役社長 | 廣野眞一
- ・(株)小学館  
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫  
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ  
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会  
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)  
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新角卓也
- ・新菱冷熱工業(株)  
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパー JSAT ホールディングス  
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原  
代表取締役 会長兼社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)  
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO  
上野真吾
- ・住友電気工業(株)  
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)  
代表取締役会長兼グループCEO  
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学  
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)  
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)  
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関町商事(株)  
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノ  
代表取締役社長 | 澤本 泉
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長CEO | 村松俊亮

・損害保険ジャパン(株)  
取締役社長 | 石川耕治

・第一三共(株)  
代表取締役会長兼CEO | 眞鍋 淳

・第一生命保険(株)  
代表取締役社長 | 隅野俊亮

・大成建設(株)  
代表取締役社長 | 相川善郎

・大日コーポレーション(株)  
代表取締役社長兼グループCEO  
鈴木忠明

・高砂熱学工業(株)  
代表取締役社長 | 小島和人

・(株)ダク  
代表取締役 | 福田浩二

・(株)竹中工務店  
取締役執行役員社長 | 佐々木正人

・田中貴金属工業(株)  
代表取締役社長執行役員  
田中浩一朗

・田原 昇

・チャンネル銀河(株)  
代表取締役社長 | 前田鎮男

・中央日本土地建物グループ(株)  
代表取締役社長 | 三宅 潔

・中外製薬(株)  
代表取締役社長 | 奥田 修

・(株)電通  
代表取締役 社長執行役員 | 佐野 傑

・(株)テンポプリモ  
代表取締役 | 中村聡武

・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)  
代表取締役会長 | 石田建昭

・東海旅客鉄道(株)  
代表取締役社長 | 丹羽俊介

・東急(株)  
取締役社長 社長執行役員 | 堀江正博

・(株)東急コミュニティー  
代表取締役社長 | 木村昌平

・(株)東急文化村  
代表取締役 | 嶋田 創

・(株)東京交通会館  
取締役社長 | 興野敦郎

・東信地所(株)  
代表取締役 | 堀川利通

・東武鉄道(株)  
取締役社長 | 都筑 豊

・桐朋学園大学  
学長 | 辰巳明子

・(株)東北新社  
代表取締役社長 | 小坂恵一

・鳥取末広座(株)  
代表取締役 | 西川八重子

・(-財)凸版印刷三幸会  
代表理事 | 金子眞吾

・トヨタ自動車(株)  
代表取締役社長 | 佐藤恒治

・内外施設工業グループホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 林 克昌

・中銀グループ  
代表 | 渡辺蔵人

・中本光子

・日興アセットマネジメント(株)  
会長 | 西田 豊

・日鉄興和不動産(株)  
代表取締役社長 | 三輪正浩

・日東紡績(株)  
取締役 代表執行役会長 | 辻 裕一

・(株)日本アーティスト  
代表取締役 | 幡野菜穂子

・日本ガイン(株)  
取締役社長 | 小林 茂

・(株)日本カストディ銀行  
代表取締役社長 | 土屋正裕

・(株)日本国際放送  
代表取締役社長 | 高尾 潤

・日本たばこ産業(株)  
代表取締役社長 | 寺嶋正道

・日本運通(株)  
代表取締役社長 | 竹添進二郎

・日本電気(株)  
取締役 代表執行役社長兼CEO  
森田隆之

・日本BCP(株)  
代表取締役社長 | 角谷育則

・(-財)日本放送協会共済会  
理事長 | 竹添賢一

・日本みらいホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 安嶋 明

・日本郵政(株)  
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也

・(株)ニトリホールディングス  
代表取締役会長兼CEO | 似鳥昭雄

・(株)ニフコ  
代表取締役社長 | 柴尾雅春

・野田浩一

・野村ホールディングス(株)  
代表執行役社長 | 奥田健太郎

・パナソニック ホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 グループCEO  
楠見雄規

・(株)原田武夫国際戦略情報研究所  
代表取締役 | 原田武夫

・(有)バルフェ  
代表取締役 | 伊藤良彦

・びあ(株)  
代表取締役社長 | 矢内 廣

・(株)フォトロン  
代表取締役 | 瀧水 隆

・福田三千男

・富士通(株)  
代表取締役社長 | 時田隆仁

・富士通フロンテック(株)  
代表取締役社長 | 渡部広史

・古川宣一

・ペプチドリーム(株)  
代表取締役社長CEO | リード・バトリック

・(株)朋栄ホールディングス  
代表取締役 | 清原克明

・(株)放送衛星システム  
代表取締役社長 | 角 英夫

・(公)放送文化基金  
理事長 | 濱田純一

・ホクト(株)  
代表取締役 | 水野雅義

・ボラリス・キャピタル・グループ(株)  
代表取締役社長 | 木村雄治

・前田工織(株)  
代表取締役社長 | 前田尚宏

・牧 寛之

・町田優子

・丸紅(株)  
代表取締役社長 | 柿木真澄

・溝江建設(株)  
代表取締役社長 | 溝江 弘

・三井住友海上火災保険(株)  
代表取締役 | 舩曳真一郎

・(株)三井住友銀行  
頭取 | 福留朗裕

- ・三井住友信託銀行(株)  
取締役社長 | 大山一也
  - ・三菱商事(株)  
代表取締役社長 | 中西勝也
  - ・(株)緑山スタジオ・シティ  
代表取締役社長 | 永田周太郎
  - ・三橋産業(株)  
代表取締役会長 | 三橋洋之
  - ・三橋洋之
  - ・三原穂積
  - ・(株)ミロク情報サービス  
代表取締役社長 | 是枝周樹
  - ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学  
理事長 | 福井直敬
  - ・(株)明治  
代表取締役社長 | 松田克也
  - ・(株)明電舎  
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
  - ・メットライフ生命保険(株)  
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者  
ディルク・オステイン
  - ・(株)目の眼  
社主 | 櫻井 恵
  - ・森ビル(株)  
代表取締役社長 | 辻 慎吾
  - ・森平舞台機構(株)  
代表取締役 | 森 健輔
  - ・山田産業(株)  
代表取締役 | 山田裕幸
  - ・(株)ヤマハミュージックジャパン  
代表取締役社長 | 松岡祐治
  - ・ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 | 片山貴雄
  - ・米澤文彦
  - ・(株)読売広告社  
代表取締役社長 | 菊地英之
  - ・(株)読売旅行  
代表取締役社長 | 貞広貴志
  - ・リコージャパン(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO  
笠井 徹
  - ・料亭 三長  
代表 | 高橋千善
  - ・(株)リンレイ  
代表取締役社長 | 鈴木信也
  - ・(有)ルナ・エンタープライズ  
代表取締役 | 戸張誠二
  - ・ローム(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
松本 功
  - ・YKアクロス(株)  
代表取締役社長 | 田渕浩記
  - ・YCC(株)  
社長 | 中山武之
- (五十音順、敬称略)

## NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいたしており、当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

### 遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

# みなさまの声をお聞かせください！

## インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。  
ご協力をお願いいたします。

### アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の  
QRコードを読み取る。  
またはURLを入力  
[https://www.nhkso.or.jp/  
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、  
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

|      |  |     |   |
|------|--|-----|---|
| ふりがな |  | 年齢  | 歳 |
| お名前  |  | TEL |   |

.....

.....

.....

.....

### 個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

# NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

First Concertmaster: Sunao Goko

Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

## 1st Violins

- Shirabe Aoki
- Ayumu Iizuka
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Taiga Tojo
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Haruhiko Mimata
- Nana Miyagawa
- Tsutomu Yamagishi
- Koichi Yokomizo

## 2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
- ◎ Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Ryuto Murao
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Masamichi Yokoshima
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

\* Yui Yuhara

## Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◎ Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- \* Eri Kuribayashi
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikumi
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu

## Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Koichi Fujimori
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Yusuke Yabe
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

## Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

## Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- # Junji Nakamura

## Oboes

- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

## Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- Takashi Yamane

## Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- \* Shusuke Ouchi
- Yuki Sato
- Itaru Morita

## Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

## Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- \* Kotaro Fujii
- Eiji Yamamoto

## Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

## Tuba

Yukihiro Ikeda

## Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

## Percussion

Tatsuya Ishikawa  
Hidemi Kuroda  
Satoshi Takeshima

## Harp

Risako Hayakawa

## Stage Manager

Masaya Tokunaga

## Librarian

Akane Oki  
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector, \* Intern)

## PROGRAM

A

Concert No.2031

NHK Hall

February

8 (Sat) 6:00pm

9 (Sun) 2:00pm

conductor

Petr Popelka

horn

Radek Baborák

concertmaster

Kota Nagahara

Under the auspice of:

CZECH CENTRE  
TOKYO
**Alexander Zemlinsky**  
***Sinfonietta* Op. 23 [21']**

- I Sehr lebhaft
- II Ballade: Sehr gemessen (poco adagio),  
doch nicht schleppend
- III Rondo: Sehr lebhaft

**Richard Strauss**  
**Horn Concerto No. 1 E-flat Major**  
**Op. 11 [17']**

- I Allegro
- II Andante
- III Rondo: Allegro

— intermission (20 minutes) —

**Antonín Dvořák**  
***The Wild Dove*, sym. poem Op. 110**  
**[19']**
**Leoš Janáček**  
***Sinfonietta* [23']**

- I Allegretto
- II Andante
- III Moderato
- IV Allegretto
- V Andante con moto

- All performance durations are approximate.

## Artist Profiles

**Petr Popelka, conductor**


Czech conductor Petr Popelka is now taking Europe and America by storm. In the first five years since the start of his career as a conductor, he has served as Chief Conductor of three orchestras. Considering his talent and competence, he will certainly be promoted to further positions.

Born in Prague in 1986, he served as Deputy Principal Double Bassist of the Sächsische Staatskapelle Dresden for nine years from

2010. It was in 2019 when he started his full-fledged conducting career, and since then, he has stepped onto the podium of many renowned orchestras, achieving remarkable success. From 2020 to 2023, he was Chief Conductor of the Norwegian Radio Orchestra, and became Chief Conductor and Artistic Director of the Prague Radio Symphony Orchestra in 2022. He has also assumed the position of Chief Conductor of the Wiener Symphoniker from the 2024 season.

He made his debut in Japan by guest-conducting the Tokyo Symphony Orchestra in 2022, successfully bringing the orchestra together in a short period of time, very delicately creating sounds and performing in a grand scale, for which he won critical acclaim. He returned to Japan in 2024 with the Prague Radio Symphony Orchestra on its Japan tour.

On this first collaboration with the NHK Symphony Orchestra, he will conduct two subscription programs. In Program A, which includes *Sinfonietta* by both Zemlinsky and Janáček, he will clearly depict the style and shape unique to each work, while in Program B of Mozart and Schumann, we can expect to hear a well-balanced perfect performance based on the solid structure and good flow.

[Petr Popelka by Suzuki Atsufumi, music critic]

---

## Radek Baborák, horn



©Lucie Čermáková

Czech virtuoso Radek Baborák, born in 1976, worked with the NHK Symphony Orchestra in the September Subscription concert in 2018. He started learning horn at the age of eight, and studied with Bedřich Tylšár at the Prague Conservatoire. He quickly started to win various competitions, and after winning the prestigious ARD International Music Competition Munich in 1994, he gathered world attention as a prodigy of horn. He served as solo horn player of the Münchner Philharmoniker and the Berliner Philharmoniker, while as a soloist, he performed worldwide, working with the Berliner Philharmoniker, Wiener Philharmoniker, and Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks.

He has also poured energy into the field of chamber music, performing in the Afflatus Quintet, a woodwind quintet he formed with his Czech friends, and the Baborák Ensemble, and has collaborated with masterly players of the world. He is also actively making recordings, releasing a wide discography from major labels of many countries. In recent years, he has launched a conducting career and has guest-conducted the Saito Kinen Orchestra and Mito Chamber Orchestra, and now serves as Music Partner of the Yamagata Symphony Orchestra.

[Radek Baborák by Takuya Katagiri, music critic]

## Alexander Zemlinsky (1871–1942)

**Sinfonietta Op. 23**

Zemlinsky, born to Jewish parents in Vienna, was known more as a leading conductor than a composer during his lifetime (he was the first Kapellmeister of the newly founded Vienna Volksoper), although his works such as *Lyric Symphony* (1923) have been performed more and more frequently in later days. Overall, his chromatically-expanded harmonic style follows Mahler (1860–1911) and Richard Strauss (discussed below) remaining in the traditional tonal language. Unlike Schönberg (1874–1951) who was Zemlinsky's composition pupil and brother-in-law (his sister married Schönberg), he never adopted the novel twelve-tone technique.

When it comes to Zemlinsky's relation to the Czech musical world which is an essential element of today's concert, he contributed much to the development of Prague's musical culture from 1911 to 1927 as the music director of the New German Theater (later renamed the Prague State Opera) and a guest conductor of the Czech Philharmonic Orchestra. During this period, Zemlinsky conducted important compositions by Smetana (1824–1884) and Janáček (described below) before moving to Berlin.

To flee from Nazi Berlin, Zemlinsky moved back to Vienna in 1933. *Sinfonietta* (meaning "little symphony") was written the next year in response to a proposal from the Austrian publisher Universal Edition and first performed in Prague in 1935. It is composed of three fast-slow-fast movements. The lively outer movements both in D major, piquant and even cynical at times, evokes his contemporaries Hindemith and Stravinsky, while the central movement in B-flat minor entitled Ballade reminds us of Mahler with its late-Romantic dismal, melodious emotiveness.

## Richard Strauss (1864–1949)

**Horn Concerto No. 1 E-flat Major Op. 11**

The Munich-born composer Strauss's oeuvre is abundant in notable passages for French horn(s), with his *Ein Heldenleben* (*A Hero's Life*) and *Eine Alpensinfonie* (*An Alpine Symphony*) springing to mind. His earliest memory of the instrument is unmistakably linked to his father Franz (1822–1905), a historic horn virtuoso who served as the principal hornist at the prestigious Munich Court Orchestra. A precocious musical genius, his son began to compose at age 6. Guided by his father's conservative taste, Strauss's earliest compositions were modeled after Haydn, Mozart, Beethoven and Schubert. Renowned for his anti-Wagner stance, Strauss's father is said to have kept a close watch on his son's works still in the early 1880s.

Strauss penned the Horn Concerto No. 1 in 1882–1883 to celebrate his father's 60th birthday, although the latter never performed it in public most likely due to old age. Commentators have often pointed out that it is influenced by Mozart and Mendelssohn but also the Horn Concerto in C minor written by Strauss's father, while the young Strauss in his late teens surely intersperses the score with his own voice.

Performed without break, the concerto's three movements share some common motifs. Opened immediately by the soloist announcing the principal theme evoking a hunting call, the

first movement is a flexible rondo instead of a sonata. The darker next movement in A–B–A' form lets the horn sing sonorously during its middle section. The spirited finale in 6/8 meter, again a rondo, accelerates toward the end to conclude the concerto with jaunty steps.

**Antonín Dvořák (1841–1904)**

## ***The Wild Dove, sym. poem Op. 110***

An important figure of Czech national school in music, Dvořák was born near Prague in Bohemia (the western part of the Czech Republic nowadays) then ruled by the Austrian Empire. Three years he spent in the United States were to further enrich his already matured style, as represented by his Symphony No. 9 *From the New World* (1893).

Dvořák returned from America to Bohemia in 1895 having nine years left until he passed away in Prague. From this final period, *The Wild Dove* (1896) is a symphonic poem based on a ballad of the same title by Czech national poet K. J. Erben (1811–1870). The first performance was given in 1898 under the baton of Janáček (mentioned below).

*The Wild Dove* in a single-movement has five sections of different tempos and moods following meticulously the ballad's plot. During the opening section, we hear a funeral procession of a man whose widow sheds fake tears as she actually killed him with poison. The next A-major section's jaunty trumpet melody represents a young man. The third C-major section in triple time is a scherzo describing the wedding celebration of the widow and the young man. During the next slow section in F minor, the woman hears a dove (flutes) cooing sorrowfully and obstinately on the grave of her former husband. She, racked by guilt, runs mad and commits suicide. The final section has the opening funeral music return, this time for the woman.

**Leoš Janáček (1854–1928)**

## ***Sinfonietta***

A thirteen-year junior to Dvořák, Janáček was born in Moravia (the eastern part of the Czech Republic today) then a part of the Austrian Empire. He first received musical education in Brno, Moravia's capital, before studying organ in Prague where he met Dvořák. Trained at Leipzig's and Vienna's Conservatories in the early 1880s, Janáček began to have a passion for the study of Moravian folk songs and dances in the late 1880s, which would deeply influence his classical compositions marked by metrical/rhythmical individuality and intense contrast of sonority. A late bloomer, he won international fame in his sixties in 1916 when his opera *Jenůfa* (1904) was first staged in Prague with much success.

Then in 1918, an earnest wish of Janáček—and his compatriots—was fulfilled immediately after World War I ended: the independence of Czechoslovakia. He composed *Sinfonietta* in 1926 for Prague's Sokol Festival (Sokol is a gymnastic society established by Czech patriots in Prague), intending at first to dedicate it to the new Czechoslovak Army. According to the composer's own words, the work honors "contemporary free man, his spiritual beauty and joy, his strength, courage and determination to fight for victory." *Sinfonietta* is a homage to Brno as well, as originally, each movement (except for the opening one) had a title related to the sights of the city: I *Fanfare* / II *The Castle, Brno* / III *The Queen's Monastery, Brno* / IV *The Street Leading to the Castle* / V *The Town Hall, Brno*.

A

8 & 9, FEB. 2025

*Sinfonietta* is, despite the title (meaning “little symphony”), Janáček’s biggest purely instrumental piece. It is scored for an orchestra and an additional brass band which is composed of nine trumpets, two bass trumpets and two tenor tubas. Against the norm, the main orchestra—the single exception is timpani—remains silent during the opening movement performed by the brass band alone. It is only toward the end of the final movement that the brass band returns in an impressive manner, this time to play together with the entire main orchestra.

A

8 & 9, FEB. 2025

---

#### Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No.2032

Suntory Hall

February

13(Thu) 7:00pm

14(Fri) 7:00pm

conductor

Petr Popelka | for a profile of Petr Popelka, see p. 54

mezzo soprano

Ema Nikolovska\*

concertmaster

Sunao Goko

Under the auspice of:



**Wolfgang Amadeus Mozart**  
*Vado, ma dove?*, aria K. 583\* [4']

**Wolfgang Amadeus Mozart**  
*Alma grande e nobil core*, aria K. 578\* [4']

**Wolfgang Amadeus Mozart**  
**Symphony No. 25 G Minor K. 183**  
[24']

- I Allegro con brio
- II Andante
- III Menuetto
- IV Allegro

**Wolfgang Amadeus Mozart**  
*Bella mia fiamma, addio—Resta, oh cara*, recitative and aria K. 528\* [10']

— intermission (20 minutes) —

**Robert Schumann**  
**Symphony No. 1 B-flat Major**  
**Op. 38, Frühlingssinfonie**  
*(Spring Symphony)* [30']

- I Andante un poco maestoso – Allegro molto vivace
- II Larghetto
- III Scherzo: Molto vivace
- IV Allegro animato e grazioso

- All performance durations are approximate.

B

13 & 14, FEB. 2025

## Ena Nikolovska, mezzo soprano



Ena Nikolovska from North Macedonia was brought up in Toronto, Canada. After studying violin at the Glenn Gould School, she shifted to vocal music, and completed her Master's in Voice at the Guildhall School of Music and Drama in London. She was selected as a BBC New Generation Artist from 2019–2022, a project known to discover young artists. In the 2022–23 season, she made her role debut as Octavian in

*Der Rosenkavalier* at the Staatsoper Unter den Linden, Berlin, where she had been a member of the Opera Studio, and in October 2023, she sang the lead role of the Woman in *Picture a Day Like This* by George Benjamin at the Linbury Theatre at Covent Garden, and won high acclaim. In 2024, she returned to Berlin for Stéphanie in *Roméo et Juliette*. She has also appeared in concerts with András Schiff and Martha Argerich.

The pieces she will sing with the NHK Symphony Orchestra will be arias which were written by Mozart to be inserted into other composers' operatic works, as well as a so-called "concert aria" to be performed at a concert. Because they were all composed for particular singers, they are perfect to judge the singer's abilities. This performance will be her debut in Japan, and we are excited to see how this promising rising star will perform these songs.

[Ena Nikolovska by Naoko Murota, music critic]

### Program Notes | Kumiko Nishi

#### Wolfgang Amadeus Mozart (1756–1791)

### *Vado, ma dove?*, aria K. 583

In Mozart's time, it was quite a common occurrence for star opera singers to commission new arias tailored to their voice at the revivals of existing operas, to insert them or substitute original arias with them. Among those divas is the soprano Louise Villeneuve. She made her singing debut in Vienna in June 1789 receiving a local paper's praise for "her sensitive and expressive acting and her artful, beautiful singing."

For Villeneuve, Mozart composed the substitute aria *Vado, ma dove?* (*I'll go, but whither?*) K. 583 in the autumn of 1789, two years before his passing at age 35. It was for the revival in Vienna of the comic opera *Il burbero di buon cuore* (*The Good-Hearted Curmudgeon*) composed by V. M. y Soler to L. Da Ponte's libretto and premiered in 1786 in Vienna. The present aria is sung by a leading role Madama Lucilla who finds out her husband is going bankrupt because of her spendthrift nature. Lucilla's anxiety is revealed in the first half of the song (Allegro, 4/4), while she asks love in a soft voice to guide her in the second half (Andante, 3/4).

## ***Alma grande e nobil core*, aria K. 578**

As with the above-mentioned K. 583, *Alma grande e nobil core* (*Great soul and noble heart*) K. 578 is a substitute aria Mozart composed for Louise Villeneuve in the summer of 1789. It was for the revival in Vienna of D. Cimarosa (1749–1801)’s 1783 comic opera *I due baroni di Rocca Azzurra* (*The Two Barons from Rocca Azzurra*) to G. Palomba’s libretto. The story features the betrothed Don Totaro and Laura who’ve never met. Attracted to Laura, Franchetto sends his sister Sandra’s portrait to Totaro so he falls in love with her. K. 578 in B-flat major (the same key as Schumann’s Symphony No. 1 discussed below) lets Laura vow vengeance with determination.

Incidentally, Mozart also wrote the part Dorabella (from his opera *Così fan tutte*) for Villeneuve who premiered the role in 1790.

### Wolfgang Amadeus Mozart

## **Symphony No. 25 G Minor K. 183**

Mozart’s No. 25 is likely the most somber and dramatic among all of his forty-one numbered symphonies. It was probably for its theatrical tenseness that No. 25 was picked to open the semi-fictional movie about Mozart’s life by the Academy Award-winning director Miloš Forman. No. 25, completed in Mozart’s hometown Salzburg in 1773 when he was seventeen, is one of his only two numbered symphonies set in a minor key along with No. 40 (both in G minor). It has been widely thought that No. 25 was inspired by the Symphony No. 39 in G minor by Joseph Haydn (1732–1809) whom Mozart admired, due to some similarities like the home key, the stormy character and the presence of four French horns (doubling the standard) to expand the melodic/harmonic possibilities at hand.

No. 25 is a four-movement symphony. The first sonata movement is opened by the syncopated principal theme on the strings which is often associated with the *Sturm und Drang* (Storm and Stress) in music, a proto-Romantic style that emphasized agitated, subjective and highly emotional expressions. The next tuneful movement in E-flat major could be compared to an opera scene. The third movement is an unsmiling G-minor minuet, a rareness, having the G-major balmy trio (central) section entrusted only to the winds. As grave as the opening movement, the finale in G minor is a sonata teemed with dramatic sudden changes in dynamics and moods.

### Wolfgang Amadeus Mozart

## ***Bella mia fiamma, addio* —*Resta, oh cara*, recitative and aria K. 528**

The recitativo *Bella mia fiamma, addio* (*My beautiful beloved, farewell!*) and aria *Resta, oh cara* (*Stay, oh sweetheart*) K. 528 date from the autumn of 1787 when Mozart sojourned in Prague for the premiere of his opera *Don Giovanni*. He completed the opera at the villa Bertramka near Prague of which he was a frequent guest. The villa was owned by Mozart’s family friends, the Czech composer-pianist-teacher František Xaver Dušek and his wife Josefa, a soprano. And it was for her that Mozart wrote the present recitativo and aria at their villa.

K. 528 demands an exceptionally high level of vocal technique and expressiveness, which is an eloquent witness to how Josefa was accomplished in singing. The text was taken from N. Jommelli's 1772 opera *Cerere placata* (*Ceres Placated*). Both the grievous recitativo and aria are sung by the role Titano (King of Spain) after being condemned to death by Cerere (Queen of Sicily) who is furious that he has eloped with her daughter Proserpina.

**Robert Schumann (1810–1856)**

## **Symphony No. 1 B-flat Major Op. 38, *Frühlingssinfonie* (*Spring Symphony*)**

The life of the German Romantic composer Schumann was not a quiet one. Having suffered from mental illness for years, he jumped into the wintry Rhine River in 1854, prior to his two-year confinement in a sanitarium and subsequent passing at age 46. Still he had his ups and downs, and the Symphony No. 1 was born during one of the blissful periods of his personal life. Composed in January–March 1841 at one sitting, No. 1 was premiered the same year under the baton of Mendelssohn with a warm reception in Leipzig, then Schumann's base.

The foremost reason behind his “blissful” life of the time was that his marriage to Clara was legally permitted in the summer of 1840 after their battle in court against her father. Following their wedding, Clara announced her pregnancy during the Christmas season. This year 1840 is known as Schumann's “Year of Song” as his stimulated creativity produced as many as over 120 songs. The next year 1841, called his “Symphonic Year”, was instead the phase when he worked intensively on orchestral works partly at Clara's suggestion. And it was the Symphony No. 1 that heralded the beginning of this important year.

Originally, Schumann named No. 1 *Frühlingssinfonie* (*Spring Symphony*) and gave each movement a title (see below) that he later removed. By one account, a source of his inspiration was the poem by Adolf Böttger *Frühlingsgedicht* (*Spring Poem*) celebrating the advent of the season.

The first movement (“The Beginning of Spring”), a B-flat-major sonata, has a solemn introduction opened by a unison fanfare on trumpets and horns. This brief figure will recur throughout the symphony as a unifying element. The lyrical second movement (“Evening”) is followed without pause by the third movement (“Merry Playmates”), a D-minor scherzo with two different trio (central) sections in major keys. The euphoric finale (“Spring in Full Bloom”) is also a B-flat-major sonata. Even its second theme in G minor, introduced by bouncing oboes and bassoons, is unable to conceal its delight.

**Kumiko Nishi**

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 58

PROGRAM

C

Concert No.2033

NHK Hall

February

21 (Fri) 7:00pm

22 (Sat) 2:00pm

conductor

Tatsuya Shimono

violin

Fumiaki Miura

concertmaster

Sunao Goko

**Franz von Suppè**  
*Leichte Kavallerie*, operetta  
—Overture (*Light Cavalry*) [8']

**Camille Saint-Saëns**  
**Violin Concerto No. 3 B Minor**  
**Op. 61** [30']

I Allegro non troppo

II Andantino quasi allegretto

III Molto moderato e maestoso

— intermission (20 minutes) —

**Franz von Suppè**  
*Dichter und Bauer*, operetta  
—Overture  
(*Poet and Peasant*) [10']

**Jacques Offenbach /**  
**Manuel Rosenthal**  
*Gaîté Parisienne*, ballet  
(*Parisian Gaiety*)(Excerpts) [37']

Ouverture

No. 1 Allegro brillante

No. 2 Polka

No. 6 Allegro

No. 8 Valse lente

No. 9 Tempo di marcia

No. 10 Valse moderato

No. 11 Vivo

No. 12 Valse

No. 13 Allegro molto

No. 14 Valse

No. 15 Allegro

No. 16 Cancan

No. 17 Quadrille

No. 18

No. 22 Vivo

No. 23 Barcarolle

- All performance durations are approximate.

C

21 & 22. FEB. 2025

## Tatsuya Shimono, conductor



©Naoya Yamaguchi

It was the year 2000 when Tatsuya Shimono came into our vision when he won 1st prize at the 12th Tokyo International Music Competition for Conducting (presently the Tokyo International Conducting Competition). The chairman of the jury was Yuzo Toyama, Principal Conductor of the NHK Symphony Orchestra, one of his predecessors. In 2022, almost a quarter of a century later, in his 6th year as General Music Director of the Hiroshima Symphony Orchestra (currently Conductor Laureate), Shimono founded The Next-Generation Conductors Academy and Competition. In 2024, it was renamed Hiroshima International Conductors Competition, and he appointed Christian Arming as the chairman of the jury, and Shimono himself became Music Producer for its parent organization, the Hiroshima Festival. He also serves as Music Director of the Hiroshima Wind Orchestra, while in a music program titled Suisogaku-no-hibiki (the Sound of Wind Music) on NHK-FM, presents the program with a fluent and skillful talk, almost equal to professional announcers. In the field of competitions and broadcasting, he is gradually inheriting Yuzo Toyama's legacy.

His skillful approach to enliven music based on his sense of harmony and phrasing, which he sharpened during his study in Vienna, has been highly evaluated by orchestras all over the world, and his unique way of program-making has also garnered attention. In the NHK Symphony Orchestra's February 2025 Subscription concert Program C, he will conduct a gorgeously lined-up program by contrasting the two operetta composers born in 1819, Suppé, who was born in Split (of current Croatia) and moved to Vienna, and Offenbach, who was born in Cologne and moved to Paris, and will add Saint-Saëns' Violin Concerto No. 3 which the composer dedicated to the virtuoso Sarasate (which Fumiaki Miura performs).

[Tatsuya Shimono by Takuo Ikeda, music journalist]

## Fumiaki Miura, violin



©Yuj Hori

Fumiaki Miura is a violinist with a stunning aura. In the spring of 2024, he released the complete collection of Brahms sonatas (piano: Kazune Shimizu), and also performed with the Israel Philharmonic Orchestra in its subscription concert. Therefore, there is a high expectation for his appearance in the NHK Symphony Orchestra's February Subscription concert of Program C in 2025 to play Saint-Saëns Violin Concerto No. 3, known as an elegant piece.

He studied violin with Pavel Vernikov in Vienna, and in 2009, at the age of 16, won the Joseph Joachim International Violin Competition Hannover, jumping on to the world stage. At the NHK Music Festival, he worked with the Los Angeles Philharmonic under Gustavo Dudamel to perform works by John Williams while was invited to the Royal Philharmonic Orchestra as its Artist-in-Residence for 2022.

In recent years, he has expanded his career as a conductor, and was warmly received for

Brahms Symphony No. 1 with the City of Kyoto Symphony Orchestra. He is currently the Artistic Leader of Suntory Hall ARK Classics. In June 2024, he assumed the position of Music Director of the Miyazaki International Music Festival to succeed Tsugio Tokunaga, his mentor. He performs on the Guarneri del Gesu 1732 'Kaston.'

[Fumiaki Miura by Yoshimichi Okuda, music critic]

---

## Program Notes | Kumiko Nishi

---

### Franz von Suppè (1819–1895)

---

## ***Leichte Kavallerie*, operetta—Overture (*Light Cavalry*)**

The present concert program casts a spotlight on the operetta which gained tremendous popularity in Europe from the mid-19th century through the mid-20th. Often comic, and composed of spoken dialogues, songs and dances, the operetta was established by Offenbach in Paris (discussed below). The genre quickly spread to Vienna and other European cities, and eventually developed into the musical.

Suppè is considered the father of the Viennese operetta who paved the way for Johann Strauss II (1825–1899) and Franz Lehár (1870–1948). The son of an Austrian civil servant, Suppè was born in Spalato (then a part of the Austro-Hungarian Empire, now Split in Croatia) and took flute and composition lessons in his childhood. While he was a law student in Padua, he spent time in Milan where he met Rossini, Donizetti and Verdi, and heard Italian operas. After honing his composition skills in Vienna, Suppè served as a composer-conductor successively at leading theaters in the city for which he wrote many stage works. Overall, his compositions are marked by the marriage of Viennese fluent lightness and Italian tunefulness.

Suppè's *Das Pensionat* (*The Boarding School*), premiered in November 1860, is regarded as the first true Viennese operetta composed following the latest trend in Offenbach's operettas in Vienna since 1858. Noteworthy is that the successful Viennese premiere of Offenbach's *Orphée aux enfers* (*Orpheus in the Underworld*) took place in early 1860.

The two-act operetta *Leichte Kavallerie* (*Light Cavalry*) was premiered in 1866 at Vienna's Carltheater, then Suppè's workplace. The slapstick story is set in an Austrian village: beautiful Vilma, raised as an orphan, finds out that her real father is Janos, one of the Hungarian hussars (lightly armed cavalries) visiting the village. The popular overture consists of contrasting five sections performed without break. The solemn beginning with a brass fanfare (A major) and the next fast section (A minor) are followed by the famous march evoking horse gallops. The next slower section immerses itself in a Bohemian-like elegiac atmosphere, before the finale has horse gallops return and closes the overture with a brilliant fanfare.

C

21 & 22. FEB. 2025

## Violin Concerto No. 3 B Minor Op. 61

Born in Paris, Saint-Saëns was a genuine musical prodigy who started composing at age 3 and made his official pianist debut at age 10. He then quickly came to fame: Berlioz (1803–1869) wittily commented on the talent of young Saint-Saëns, saying “he knows everything, but lacks inexperience.” Besides as a skillful composer, Saint-Saëns had an excellent reputation as an organist, and Liszt (1811–1886) famously hailed him “the greatest organist in the world.” Furthermore, Saint-Saëns was an enthusiastic supporter of other contemporary composers, conducting Liszt’s symphonic poems and defending music of Wagner (1813–1883) in France.

Through his own experiences as an interpreter, Saint-Saëns strongly sensed the necessity of a vigorous effort to boost his country’s instrumental music repertoire. In fact, operas, ballets and Austro-German music dominated the French classical music scene until then. That was a reason why he founded the Société nationale de musique in Paris together with Fauré (1845–1924) and Franck (1822–1890) in 1871 immediately after Prussia defeated France at the war of 1870–1871. This patriotic association aimed to encourage French composers to write more orchestral and chamber works. Saint-Saëns himself would act out penning the symphonic poem *Danse macabre* (1874), Symphony No. 3 “Organ” (1886) and various concertos to name a few.

Saint-Saëns composed the Violin Concerto No. 3 in 1880 in his mid-forties for Pablo de Sarasate (1844–1908). For this unparalleled virtuoso violinist from Spain, Saint-Saëns had written *the Introduction and Rondo Capriccioso* seventeen years earlier. The Violin Concerto No. 3 is distinguished by its clear structure encasing varied ingenious ideas in it. The orchestra sounds magnificent here and there in the first passionate sonata movement and the dramatic rondo finale full of variety. The middle movement, brimming with grace peculiar to French music, is a barcarolle (boat-song) as hinted by the 6/8 time at a moderate pace evoking Venetian gondoliers’ regular strokes. At the dreamy ending of this gondola ride movement, the violin solo plays with the flageolet technique to produce high, delicate, transparent tones.

### Franz von Suppè

## *Dichter und Bauer*, operetta—Overture (*Poet and Peasant*)

The present overture was composed as the incidental music for the comedy *Dichter und Bauer* (*Poet and Peasant*). It was premiered in Vienna in 1846—thus before the operetta was imported there from France—at the Theater an der Wien where Suppè was working as the Kapellmeister. The story, set in Bavaria, features the young heroine Hermine. The title refers to the poet Ferdinand whom she loves, and a peasant whose daughter receives a passionate poem from Ferdinand. The overture’s seven sections of varied tempos and moods are performed without break. The introductory section is particularly well-known for its opening grave brass chorale and its extended folksong-like cello solo over harp, followed by the darker and blustery next section. Later around 1900, *Dichter und Bauer* would be adapted into an operetta with Suppè’s original music.

## ***Gaîté Parisienne*, ballet (*Parisian Gaiety*) (Excerpts)**

Born in Cologne, Germany, Offenbach moved to France as a teenage to improve his cello performance. Nicknamed “the Liszt of the cello,” he first played in Parisian theater orchestras and toured Europe as a virtuoso. He then began trying to find a way to create operettas and eventually owned a theater in Paris. His first large-scale attempt *Orphée aux enfers* (*Orpheus in the Underworld*) was such a hit in 1858 in Paris that this genre gained explosive popularity in France and abroad. Incidentally, Saint-Saëns quotes the famous French cancan dance from *Orphée aux enfers* in *Le Carnaval des animaux* (*The Carnival of the Animals*) (1886).

Offenbach’s operettas were usually based on well-known myths or tales, and caricatured the contemporary Establishment or society. His choice of the popular music-hall dance cancan for corrupt Greek gods, for example, is a pungent satire. The tuneful, incredibly cheerful music by the German composer (even though Offenbach was naturalized as a French), must have sounded fresh for the audience who was familiar with the existing French opéra comique growing more and more serious.

Prepared half a century after Offenbach’s passing, the ballet score *Gaîté Parisienne* (*Parisian Gaiety*) consists of highlights from his different operettas and opera. They were arranged for orchestra by the French composer Rosenthal at the request of the ballet company Ballet Russe de Monte-Carlo that premiered the ballet in 1938 with Léonide Massine as choreographer. Ravel’s close pupil, Rosenthal displayed his ability as an imaginative orchestrator for this one-act ballet set in a Parisian chic café during Napoleon III’s Second Empire period (1852–1870).

For today’s concert, our conductor Tatsuya Shimono chose to perform excerpts. The buoyant *Ouverture* is from Offenbach’s operetta *La vie parisienne* (*The Parisian Life*), while the merry *Polka* (No. 2) is from *Le voyage dans la lune* (*A Trip to the Moon*). Timeless hits, the *Quadrille* (No.17) and *Cancan* (No. 18) from *Orphée aux enfers* are also heard. The conclusion is the exquisite *Barcarolle* (No. 23) in 6/8 meter at a moderate tempo (as with above-mentioned Saint-Saëns) from an act set in Venice of Offenbach’s fantastic opera *Les contes d’Hoffmann* (*The Tales of Hoffmann*).

C

21 & 22. FEB. 2025

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 58

# The Subscription Concerts Program 2024–25

|            |   |                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                               |                                                                         |
|------------|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 2025<br>04 | A | Concert No. 2034<br><b>April</b><br>12 (Sat) 6:00pm<br>13 (Sun) 2:00pm<br><br>NHK Hall                                                                    | <b>Berlioz</b> <i>Harold en Italie</i> , symphony ( <i>Harold in Italy</i> )*<br><b>Prokofiev</b> Symphony No. 4 C Major Op. 112 (Revised Version / 1947)<br><br>Paavo Järvi, conductor<br>Antoine Tamestit, viola*                                                                                                                                                 | Ordinary<br>S 11,000<br>A 9,500<br>B 7,600<br>C 6,000<br>D 5,000<br>E 3,000   | Youth<br>S 5,500<br>A 4,500<br>B 3,500<br>C 2,800<br>D 1,800<br>E 1,400 |
|            | B | Concert No. 2035<br><b>April</b><br>17 (Thu) 7:00pm<br>18 (Fri) 7:00pm<br><br>Suntory Hall                                                                | <b>Stravinsky</b> <i>Petrushka</i> , burlesque in 4 scenes (Complete, 1947 Version)<br><b>Britten</b> Piano Concerto Op. 13<br><b>Prokofiev</b> <i>The Love for Three Oranges</i> , symphonic suite Op. 33bis<br><br>Paavo Järvi, conductor<br>Benjamin Grosvenor (Britten), Kanon Matsuda (Stravinsky), piano                                                      | Ordinary<br>S 12,000<br>A 10,000<br>B 8,000<br>C 6,500<br>D 5,500             | Youth<br>S 6,000<br>A 5,000<br>B 4,000<br>C 3,250<br>D 2,750            |
|            | C |                                                                                                                                                           | There will be no subscription concerts of program C in April due to the orchestra's European tour.                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                               |                                                                         |
| 2025<br>05 | A | Concert No. 2036<br><b>April</b><br>26 (Sat) 6:00pm<br>27 (Sun) 2:00pm<br>- Program A of the May subscription concerts will be held in April.<br>NHK Hall | The Program Scheduled to be Performed in NHKSO Europe Tour 2025<br><b>Mahler</b> Symphony No. 3 D Minor<br><br>Fabio Luisi, conductor<br>Olesya Petrova, mezzo soprano<br>Tokyo Opera Singers, female chorus<br>NHK Tokyo Children Chorus, children chorus                                                                                                          | Ordinary<br>S 15,000<br>A 12,500<br>B 10,000<br>C 8,000<br>D 6,500<br>E 4,500 | Youth<br>S 7,000<br>A 6,000<br>B 5,000<br>C 4,000<br>D 3,000<br>E 2,000 |
|            | B | Concert No. 2037<br><b>May</b><br>1 (Thu) 7:00pm<br>2 (Fri) 7:00pm<br>Suntory Hall                                                                        | The Program Scheduled to be Performed in NHKSO Europe Tour 2025<br><b>Berg</b> Violin Concerto<br><b>Mahler</b> Symphony No. 4 G Major*<br><br>Fabio Luisi, conductor<br>Akiko Suwanai, violin    Maki Mori, soprano*                                                                                                                                               | Ordinary<br>S 12,000<br>A 10,000<br>B 8,000<br>C 6,500<br>D 5,500             | Youth<br>S 6,000<br>A 5,000<br>B 4,000<br>C 3,250<br>D 2,750            |
|            | C | Concert No. 2038<br><b>May</b><br>30 (Fri) 7:00pm<br>31 (Sat) 2:00pm<br><br>NHK Hall                                                                      | <b>Schubert</b> <i>Rosamunde</i> , overture<br><b>Dohnányi</b> <i>Variations on a Nursery Tune</i> , Op. 25*<br><b>R. Strauss</b> Symphonic Fantasy from <i>Die Frau ohne Schatten</i> ( <i>The Woman without a Shadow</i> )<br><b>R. Strauss</b> Suite from <i>Der Rosenkavalier</i> ( <i>The Rose-Bearer</i> )<br>Giedrė Šlekytė, conductor<br>Mao Fujita, piano* | Ordinary<br>S 10,000<br>A 8,500<br>B 6,500<br>C 5,400<br>D 4,300<br>E 2,200   | Youth<br>S 5,000<br>A 4,000<br>B 3,100<br>C 2,550<br>D 1,500<br>E 1,000 |
| 2025<br>06 | A | Concert No. 2039<br><b>June</b><br>7 (Sat) 6:00pm<br>8 (Sun) 2:00pm<br><br>NHK Hall                                                                       | <b>Rimsky-Korsakov</b> <i>May Night</i> , opera—Overture<br><b>Rakhmaninov</b> <i>Rhapsody on a Theme of Paganini</i> , Op. 43*<br><b>Tchaikovsky</b> Symphony No. 6 B Minor Op. 74, <i>Pathétique</i><br><br>Vladimir Fedoseyev, conductor<br>Yulianna Avdeeva, piano*                                                                                             | Ordinary<br>S 10,000<br>A 8,500<br>B 6,500<br>C 5,400<br>D 4,300<br>E 2,200   | Youth<br>S 5,000<br>A 4,000<br>B 3,100<br>C 2,550<br>D 1,500<br>E 1,000 |
|            | B | Concert No. 2040<br><b>June</b><br>12 (Thu) 7:00pm<br>13 (Fri) 7:00pm<br><br>Suntory Hall                                                                 | <b>Ibert</b> Flute Concerto<br><b>Bruckner</b> Symphony No. 6 A Major<br><br>Juanjo Mena, conductor<br>Karl-Heinz Schütz, flute                                                                                                                                                                                                                                     | Ordinary<br>S 12,000<br>A 10,000<br>B 8,000<br>C 6,500<br>D 5,500             | Youth<br>S 6,000<br>A 5,000<br>B 4,000<br>C 3,250<br>D 2,750            |
|            | C | Concert No. 2041<br><b>June</b><br>20 (Fri) 7:00pm<br>21 (Sat) 2:00pm<br><br>NHK Hall                                                                     | <b>Korngold</b> Violin Concerto D Major Op. 35<br><b>Mahler</b> Symphony No. 1 D Major, <i>Titan</i><br><br>Tarmo Peltokoski, conductor<br>Daniel Lozakovich, violin                                                                                                                                                                                                | Ordinary<br>S 10,000<br>A 8,500<br>B 6,500<br>C 5,400<br>D 4,300<br>E 2,200   | Youth<br>S 5,000<br>A 4,000<br>B 3,100<br>C 2,550<br>D 1,500<br>E 1,000 |

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

# The Subscription Concerts Program 2025–26

2025  
09

A

Concert No. 2042

September

13 (Sat) 6:00pm

14 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Beethoven** Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, *Emperor*  
**Franz Schmidt** Symphony No. 4 C Major

Fabio Luisi, conductor  
Yefim Bronfman, piano

B

Concert No. 2043

September

18 (Thu) 7:00pm

19 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

**Takemitsu** *Three Film Scores*  
**Beethoven** Violin Concerto D Major Op. 61  
**Mendelssohn** Symphony No. 4 A Major Op. 90, *Italianische (Italian)*

Fabio Luisi, conductor  
María Dueñas, violin

C

Concert No. 2044

September

26 (Fri) 7:00pm

27 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Mahler** *Des Knaben Wunderhorn (The Boy's Magic Horn)*  
—*Rheinlegendchen (Little Rhine Legend)\**,  
*Wo die schönen Trompeten blasen (Where the Fair Trumpets Sound)\**,  
*Das irdische Leben (Earthly Life)\**, *Das himmlische Leben (Heavenly Life)\**,  
*Urlicht (Primeval Light)\**  
**Sibelius** *Four Legends*, symphonic poem Op. 22

Ryan Bancroft, conductor  
Thomas Hampson, baritone\*

2025  
10

A

Concert No. 2046

October

18 (Sat) 6:00pm

19 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Stravinsky** *Symphony of Psalms*  
**Mendelssohn** Symphony No. 2 B-Flat Major Op. 52, *Lobgesang (Hymn of Praise)\**  
Herbert Blomstedt, conductor  
Christina Landshamer, soprano\*  
Marie Henriette Reinhold, mezzo soprano\*  
Tilman Lichdi, tenor\*  
Swedish Radio Choir, chorus

B

Concert No. 2045

October

9 (Thu) 7:00pm

10 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

**Grieg** *Aus Holbergs Zeit*, suite Op. 40 (*Holberg Suite*)  
**Nielsen** Flute Concerto  
**Sibelius** Symphony No. 5 E-flat Major Op. 82

Herbert Blomstedt, conductor  
Sébastien Jacot, flute

C

Concert No. 2047

October

24 (Fri) 7:00pm

25 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Brahms** Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83  
**Brahms** Symphony No. 3 F Major Op. 90

Herbert Blomstedt, conductor  
Leif Ove Andsnes, piano

2025  
11

A

Concert No. 2048

November

8 (Sat) 6:00pm

9 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Messiaen** *Trois petites liturgies de la Présence Divine*  
(*Three Little Liturgies of the Divine Presence*)\*  
**Holst** *The Planets*, suite Op. 32

Charles Dutoit, conductor  
Yu Kosuge, piano\*  
Motoko Oya, ondes martenot\*  
Tokyo Opera Singers, female chorus

B

Concert No. 2050

November

20 (Thu) 7:00pm

21 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

**Schumann** *Manfred*, incidental music Op. 115—Overture  
**Mozart** Piano Concerto No. 25 C Major K. 503  
**R. Strauss** *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)

Rafael Payare, conductor  
Emanuel Ax, piano

C

Concert No. 2049

November

14 (Fri) 7:00pm

15 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

*The 150th Anniversary of Maurice Ravel's Birth*  
**Ravel** *Pavane pour une Infante défunte (Pavane for a Dead Princess)*  
**Ravel** *Le tombeau de Couperin*, suite (*The Grave of Couperin*)  
**Ravel** *Daphnis et Chloé*, ballet (*Daphnis and Chloe*)\*  
Charles Dutoit, conductor  
Nikai Chorus Group, chorus\*

|                                                                                        |   |                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                        |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|--|
| A NHK Hall<br>Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)<br>Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm) |   | B Suntory Hall<br>Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)<br>Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | C NHK Hall<br>Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)<br>Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm) |  |
| 2025<br>12                                                                             | A | Concert No. 2051<br><b>November</b><br>29 (Sat) 6:00pm<br>30 (Sun) 2:00pm<br>Program A of the December subscription concerts will be held in November.<br>NHK Hall | Shostakovich Violin Concerto No. 1 A Minor Op. 77<br>Zemlinsky <i>Die Seejungfrau, fantasy (The Mermaid)</i><br><br>Fabio Luisi, conductor<br>Leonidas Kavakos, violin                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                        |  |
|                                                                                        | B | Concert No. 2052<br><b>December</b><br>4 (Thu) 7:00pm<br>5 (Fri) 7:00pm<br>Suntory Hall                                                                            | Fujikura <i>Ocean Breaker</i> for Orchestra (2025)<br>[Commission Work for NHK Symphony Orchestra / World Premiere]<br>Franck <i>Variations symphoniques</i> for Piano and Orchestra ( <i>Symphonic Variations</i> )*<br>Saint-Saëns Symphony No. 3 C Minor Op. 78, <i>Symphonie avec orgue (Organ Symphony)</i><br>Fabio Luisi, conductor<br>Tom Borrow, piano*                                                                                                            |                                                                                        |  |
|                                                                                        | C | Concert No. 2053<br><b>December</b><br>12 (Fri) 7:00pm<br>13 (Sat) 2:00pm<br>NHK Hall                                                                              | Chopin Piano Concerto No. 1 E Minor Op. 11 or No. 2 F Minor Op. 21<br>Nielsen Symphony No. 4 Op. 29, <i>The Inextinguishable</i><br><br>Fabio Luisi, conductor<br>The Winner of the 19th International Chopin Piano Competition, piano                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                        |  |
| 2026<br>01                                                                             | A | Concert No. 2054<br><b>January</b><br>17 (Sat) 6:00pm<br>18 (Sun) 2:00pm<br>NHK Hall                                                                               | Mahler Symphony No. 6 A Minor, <i>Tragische (Tragic)</i><br><br>Tugan Sokhiev, conductor                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                        |  |
|                                                                                        | B | Concert No. 2056<br><b>January</b><br>29 (Thu) 7:00pm<br>30 (Fri) 7:00pm<br>Suntory Hall                                                                           | Mussorgsky / Shostakovich <i>Khovanshchina</i> , opera<br>— <i>Dawn over the Moscow River</i> , prelude<br>Shostakovich Piano Concerto No. 2 F Major Op. 102<br>Prokofiev Symphony No. 5 B-flat Major Op. 100<br><br>Tugan Sokhiev, conductor<br>Kanon Matsuda, piano                                                                                                                                                                                                       |                                                                                        |  |
|                                                                                        | C | Concert No. 2055<br><b>January</b><br>23 (Fri) 7:00pm<br>24 (Sat) 2:00pm<br>NHK Hall                                                                               | Debussy <i>Prélude à l'après-midi d'un faune (Prelude to the Afternoon of a Faun)</i><br>Dutilleux Cello Concerto, <i>Tout un monde lointain...</i> (A Whole Distant World...)<br>Rimsky-Korsakov <i>The Tale of Tsar Saltan</i> , suite Op. 57<br>Stravinsky <i>The Firebird</i> , ballet suite (1919 edition)<br><br>Tugan Sokhiev, conductor<br>Michiaki Ueno, cello                                                                                                     |                                                                                        |  |
| 2026<br>02                                                                             | A | Concert No. 2057<br><b>February</b><br>7 (Sat) 6:00pm<br>8 (Sun) 2:00pm<br>NHK Hall                                                                                | Schumann Symphony No. 3 E-flat Major Op. 97, <i>Rheinische (Rhenish)</i><br>Wagner <i>Götterdämmerung</i> , opera— <i>Siegfried's Rheinfahrt</i> ,<br><i>Siegfried's Tod und Trauermarsch</i> , <i>Brünnhildes Schlussgesang</i> :<br><i>Starke Scheite schichtet mir dort*</i> ( <i>Twilight of the Gods—Siegfried's Rhine Journey</i><br><i>Siegfried's Funeral March</i> , <i>Brünnhilde's Immolation</i> )<br><br>Philippe Jordan, conductor<br>Tamara Wilson, soprano* |                                                                                        |  |
|                                                                                        | B | Concert No. 2059<br><b>February</b><br>19 (Thu) 7:00pm<br>20 (Fri) 7:00pm<br>Suntory Hall                                                                          | Dvořák Violin Concerto A Minor Op. 53<br>Brahms Serenade No. 1 D Major Op. 11<br><br>Jakub Hrůša, conductor<br>Josef Špaček, violin                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                        |  |
|                                                                                        | C | Concert No. 2058<br><b>February</b><br>13 (Fri) 7:00pm<br>14 (Sat) 2:00pm<br>NHK Hall                                                                              | Kodály Variations on a Hungarian Folksong <i>The Peacock</i><br>Hummel Trumpet Concerto E Major<br>Mussorgsky / Konoe <i>Pictures at an Exhibition</i> , suite<br><br>Gergely Madaras, conductor<br>Kazuaki Kikumoto (Principal Trumpet, NHKSO), trumpet                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                        |  |

2026  
04

| A | Concert No. 2060 | April<br>11 (Sat) 6:00pm<br>12 (Sun) 2:00pm<br>NHK Hall     | Haydn Cello Concerto No. 1 C Major Hob. VIIb-1<br>Bruckner Symphony No. 9 D Minor<br><br>Fabio Luisi, conductor<br>Jan Vogler, cello                                                                                                                                                  | Ordinary Youth                                                   |                                                                 |
|---|------------------|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
|   |                  |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                       | \$ 11,000<br>A 9,500<br>B 7,600<br>C 6,000<br>D 5,000<br>E 3,000 | \$ 5,500<br>A 4,500<br>B 3,500<br>C 2,800<br>D 1,800<br>E 1,400 |
| B | Concert No. 2061 | April<br>16 (Thu) 7:00pm<br>17 (Fri) 7:00pm<br>Suntory Hall | Mozart Clarinet Concerto A Major K. 622<br>Mahler Symphony No. 5 C-sharp Minor<br><br>Fabio Luisi, conductor<br>Kenji Matsumoto (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet                                                                                                                 | Ordinary Youth                                                   |                                                                 |
|   |                  |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                       | \$ 12,000<br>A 10,000<br>B 8,000<br>C 6,500<br>D 5,500           | \$ 6,000<br>A 5,000<br>B 4,000<br>C 3,250<br>D 2,750            |
| C | Concert No. 2062 | April<br>24 (Fri) 7:00pm<br>25 (Sat) 2:00pm<br>NHK Hall     | Toyama <i>Divertimento for Orchestra</i><br>Prokofiev Piano Concerto No. 3 C Major Op. 26<br>Ifukube <i>Ballata Sinfonica (Symphonic Ballad)</i><br>Britten <i>Peter Grimes</i> , opera— <i>Four Sea Interludes</i> Op. 33a<br><br>Tatsuya Shimono, conductor<br>Kyohei Sorita, piano | Ordinary Youth                                                   |                                                                 |
|   |                  |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                       | \$ 10,000<br>A 8,500<br>B 6,500<br>C 5,400<br>D 4,300<br>E 2,200 | \$ 5,000<br>A 4,000<br>B 3,100<br>C 2,550<br>D 1,500<br>E 1,000 |

2026  
05

| A | Concert No. 2064 | May<br>23 (Sat) 6:00pm<br>24 (Sun) 2:00pm<br>NHK Hall     | Brahms Double Concerto for Violin and Cello, A Minor Op. 102<br>Brahms / Schönberg Piano Quartet No. 1 G Minor Op. 25<br><br>Michael Sanderling, conductor<br>Christian Tetzlaff, violin<br>Tanja Tetzlaff, cello                                                                                                                              | Ordinary Youth                                                   |                                                                 |
|---|------------------|-----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
|   |                  |                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | \$ 10,000<br>A 8,500<br>B 6,500<br>C 5,400<br>D 4,300<br>E 2,200 | \$ 5,000<br>A 4,000<br>B 3,100<br>C 2,550<br>D 1,500<br>E 1,000 |
| B | Concert No. 2063 | May<br>14 (Thu) 7:00pm<br>15 (Fri) 7:00pm<br>Suntory Hall | Kazuo Yamada <i>Also sang ein Jüngling</i> , small symphonic poem<br>( <i>Thus Sang a Young Man</i> )<br>Hartmann <i>Concerto funebre (Funeral Concerto)*</i><br>Sugata <i>Symphonic Overture</i> Op. 6<br>Hindemith <i>Mathis der Maler</i> , symphony ( <i>Matthias the Painter</i> )<br><br>Kazuki Yamada, conductor<br>Suyoen Kim, violin* | Ordinary Youth                                                   |                                                                 |
|   |                  |                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | \$ 12,000<br>A 10,000<br>B 8,000<br>C 6,500<br>D 5,500           | \$ 6,000<br>A 5,000<br>B 4,000<br>C 3,250<br>D 2,750            |
| C | Concert No. 2065 | May<br>29 (Fri) 7:00pm<br>30 (Sat) 2:00pm<br>NHK Hall     | Vasks Commission Work for NHK Symphony Orchestra [Japan Premiere]<br>Shostakovich Symphony No. 4 C Minor Op. 43<br><br>Andris Poga, conductor                                                                                                                                                                                                  | Ordinary Youth                                                   |                                                                 |
|   |                  |                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | \$ 10,000<br>A 8,500<br>B 6,500<br>C 5,400<br>D 4,300<br>E 2,200 | \$ 5,000<br>A 4,000<br>B 3,100<br>C 2,550<br>D 1,500<br>E 1,000 |

2026  
06

| A | Concert No. 2067 | June<br>13 (Sat) 6:00pm<br>14 (Sun) 2:00pm<br>NHK Hall   | Wagner <i>Die Meistersinger von Nürnberg—Vorspiel</i><br>( <i>The Mastersingers of Nuremberg—Prelude</i> )<br>Mozart Piano Concerto No. 17 G Major K. 453<br>Bartók <i>Concerto for Orchestra</i><br><br>Jaap van Zweden, conductor<br>Conrad Tao, piano                                                                             | Ordinary Youth                                                   |                                                                 |
|---|------------------|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
|   |                  |                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | \$ 11,000<br>A 9,500<br>B 7,600<br>C 6,000<br>D 5,000<br>E 3,000 | \$ 5,500<br>A 4,500<br>B 3,500<br>C 2,800<br>D 1,800<br>E 1,400 |
| B | Concert No. 2066 | June<br>4 (Thu) 7:00pm<br>5 (Fri) 7:00pm<br>Suntory Hall | Honegger <i>Pastorale d'été</i> , symphonic poem ( <i>Summer Pastoral</i> )<br>Berlioz <i>Les nuits d'été</i> , songs Op. 7 ( <i>Summer Nights</i> )<br>Iber <i>Escales (Ports of Call)</i><br>Debussy <i>La mer</i> , three symphonic sketches ( <i>The Sea</i> )<br><br>Stéphane Denève, conductor<br>Gaëlle Arquez, mezzo soprano | Ordinary Youth                                                   |                                                                 |
|   |                  |                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | \$ 12,000<br>A 10,000<br>B 8,000<br>C 6,500<br>D 5,500           | \$ 6,000<br>A 5,000<br>B 4,000<br>C 3,250<br>D 2,750            |
| C | Concert No. 2068 | June<br>19 (Fri) 7:00pm<br>20 (Sat) 2:00pm<br>NHK Hall   | Sibelius <i>Andante festivo</i><br>Sibelius Violin Concerto D Minor Op. 47<br>Rakhmaninov Symphony No. 3 A Minor Op. 44<br><br>Tadaaki Otaka, conductor<br>HIMARI, violin                                                                                                                                                            | Ordinary Youth                                                   |                                                                 |
|   |                  |                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | \$ 10,000<br>A 8,500<br>B 6,500<br>C 5,400<br>D 4,300<br>E 2,200 | \$ 5,000<br>A 4,000<br>B 3,100<br>C 2,550<br>D 1,500<br>E 1,000 |

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

# Overseas Tours

## Europe Tour 2025 | Conductor: Fabio Luisi (Chief Conductor of NHKSO)

|           |                                                                                                                               |                                                                                                                                 |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Program A | Mahler / Symphony No. 3 D Minor                                                                                               | Olesya Petrova, mezzo soprano<br>Women of the National Radio Choir, female chorus<br>National Children's Choir, children chorus |
| Program B | Mahler / Songs from <i>Des Knaben Wunderhorn</i><br>( <i>The Boy's Magic Horn</i> )*<br>Mahler / Symphony No. 4 G Major**     | Matthias Goerne, baritone*<br>Ying Fang, soprano**                                                                              |
| Program C | Grieg / Piano Concerto A Minor Op. 16<br>Mahler / Symphony No. 4 G Major*                                                     | Rudolf Buchbinder, piano<br>Ying Fang, soprano*                                                                                 |
| Program D | Takemitsu / <i>Three Film Scores</i> for String Orchestra<br>Berg / Violin Concerto<br>Brahms / Symphony No. 4 E Minor Op. 98 | Akiko Suwanai, violin                                                                                                           |
| Program E | Haydn / Cello Concerto No. 1 C Major Hob. VIIb-1<br>Mahler / Symphony No. 4 G Major*                                          | Jan Vogler, cello<br>Ying Fang, soprano*                                                                                        |

|      |                                                                  |                                               |
|------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 2025 | 5/9 Fri 8:00pm   Antwerp, Belgium                                | Queen Elisabeth Hall [Program C]              |
|      | 5/11 Sun 8:15pm   Amsterdam, Netherlands<br>Mahler Festival 2025 | The Concertgebouw, Main Hall [Program A]      |
|      | 5/12 Mon 8:15pm   Amsterdam, Netherlands<br>Mahler Festival 2025 | The Concertgebouw, Main Hall [Program B]      |
|      | 5/14 Wed 7:30pm   Vienna, Austria                                | Wiener Konzerthaus, Großer Saal [Program C]   |
|      | 5/15 Thu 8:00pm   Prague, Czech<br>Prague Spring Festival 2025   | Rudolfinum, Dvořák Hall [Program D]           |
|      | 5/17 Sat 7:30pm   Dresden, Germany<br>Dresdner Musikfestspiele   | Frauenkirchen [Program D]                     |
|      | 5/18 Sun 6:00pm   Dresden, Germany<br>Dresdner Musikfestspiele   | Kulturpalast Dresden, Konzertsaal [Program E] |
|      | 5/20 Tue 7:30pm   Innsbruck, Austria                             | Congress Innsbruck, Saal Tirol [Program D]    |

## N響関連のお知らせ

いつでも どこでも、NHKの番組を。

# NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・  
パソコン・テレビ<sup>※1</sup>で  
放送から1週間<sup>※2</sup> 何度でも

お楽しみいただけます！

※1 テレビでは報道し番組配信のみ

※2 地域によっては放送2週間配信

アプリで便利に！



メールアドレスとパスワードを入力するだけで  
すぐに見逃し配信をご覧いただけます

※放送受信契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

## スマホやPCでNHKラジオが楽しめる！

### NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FM  
の放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでも  
お楽しみいただけます。 <https://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても  
楽しめる！  
**聴き逃し**

放送終了後1週間／  
聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

## 伝えるチカラ

# NHK 財団

◎ 公共メディアNHKを社会へ

◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

2023年4月、NHKグループの4つの  
一般財団法人が合併して、NHK財団  
が発足しました。子法人の公益財団法人「NHK交響楽団」と共に、事業を進  
めていきます。

ステラ  
net



NHK財団の最新情報ははこちらから

## NHK こども 音楽クラブ

「NHKこども音楽クラブ」は、  
NHKとNHK交響楽団で  
実施している出前授業。  
全国各地の学校を訪ね  
ミニコンサートを行っています。

間近で聴く演奏に  
目を輝かせる子どもたち  
そして、素顔のN響メンバーに  
出会えるコンサートです。

出前授業の動画が  
ホームページで  
ご覧いただけます



<https://www.nhk.or.jp/event/kodomo-ongaku/>

# N響の社会貢献

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。

N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

## 子どもたちの未来を育む

「N響が学校にやってきた」をキャッチフレーズにNHKと共催し、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く「NHKこども音楽クラブ」、クラシックの名曲を集めて毎年夏休みに開いている子どもと大人がともに楽しめるコンサート「N響ほっとコンサート」、N響の練習所に地元の保育園児を招いて楽器の音色を楽しんでいた「N響といっしょ！音を楽しむ!!」などを開催しています。また、小中学校と協力し、子どもたちが創作と演奏をN響メンバーと一緒に体験するワークショップに取り組むなど、新たな音楽教育プログラムの開発にも力を入れています。

## 優れた音楽家を育てる

1950年代に「指揮研究員」制度を設置し、有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供してきました。この場から故・外山雄三氏、故・岩城宏之氏、故・若杉弘氏、そして現在のN響正指揮者・尾高忠明をはじめ、日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年にはオーケストラ楽員の人材育成を目的に「N響アカデミー」を創設。オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積み、修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

### 指揮研究員

井手 奏、佐久山修太

### N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨

ヴィオラ：和田志織 コントラバス：桑原孝太郎  
クラリネット：白井宏典 打楽器：菊池幸太郎  
(2025年2月1日現在)

## 病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。

## 国際交流の輪を広げる

首都圏の大学と連携して外国人留学生を公演に招待しているほか、演奏指導などを通じてベトナム国立交響楽団との交流を重ねています。音楽は世界の架け橋です。演奏を通じた絆が世界中に広がることを願っています。

## 大学や専門家と連携する

コロナ禍では業界団体によって行われた演奏中の飛沫を調べる実験に多くの楽員、職員を派遣して協力。この実験を通じ、舞台上の安全な楽器の配置などがわかり、業界の統一したガイドライン作りに役立ちました。2021年からは東京工科大学の授業の一環に協力してN響コンサートのYouTube配信を実現。メディア学部の学生たちが撮影、編集を担当し、NHK出身の職員らの指導を受けてプロ顔負けの作品に仕上げました。N響はこれからも異なる分野の人たちと手をたずさえ、デジタル活用など新しい課題に取り組みます。

役員等・団友

|     |      |        |        |       |       |       |       |      |       |
|-----|------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| 役員等 | 理事長  | 中野谷 公一 |        |       |       |       |       |      |       |
|     | 常務理事 | 三溝 敬志  | 大曾根 聡子 |       |       |       |       |      |       |
|     | 理事   | 相川 直樹  | 内永 ゆかり | 岡田 知之 | 杉山 博孝 | 銭谷 真美 | 田辺 雅泰 | 團 宏明 | 毛利 衛  |
|     | 監事   | 春原 雄策  | 濱村 和則  |       |       |       |       |      |       |
|     | 評議員  | 稲葉 延雄  | 江頭 敏明  | 樺山 紘一 | 菅原 直  | 清野 智  | 田中 宏暁 | 檀 ふみ | 坪井 節子 |
|     |      | 中嶋 太一  | 前田 昭雄  | 三浦 惺  | 山名 啓雄 | 渡邊 修  |       |      |       |

|     |       |        |       |            |        |       |        |       |       |
|-----|-------|--------|-------|------------|--------|-------|--------|-------|-------|
| 事務局 | 演奏制作部 |        |       | 企画プロモーション部 |        | 経営管理部 |        | 特別主幹  | 芸術主幹  |
|     | 岩渕 一真 | 高木 かおり | 高橋 啓  | 森下文典       | 黒川 大亮  | 野村 歩  | 吉田 麻子  | 今村 啓一 | 西川 彰一 |
|     | 丸山 千絵 | 沖 あかね  | 上原 静  | 猪股 正幸      | 三浦 七葉子 | 浅田 武志 | 杉山 真知子 | 技術主幹  |       |
|     | 石井 康  | 内山 弥生  | 木村 英代 | 吉賀 亜希      |        | 目黒 重治 |        |       |       |
|     | 利光 敬司 | 徳永 匡哉  | 小倉 康平 | 宮崎 則匡      |        | 山本 能寛 |        | 尾澤 勉  |       |

|                 |        |        |        |        |        |        |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 団友              | 鶴我 裕子  | チェロ    | 北島 章   | 来馬 賢   | ピアノ    | 入江 哲之  |
|                 | 徳永 二男  |        | 浜 道晃   | 関山 幸弘  |        | 金沢 孝   |
| 名誉コンサート<br>マスター | 中瀬 裕道  | 岩井 雅音  | 茂木 大輔  | 津堅 直弘  | 本荘 玲子  | 小林 文行  |
|                 | 永峰 高志  | 木越 洋   |        | 板本 浩規  |        | 清水 永一郎 |
| 堀 正文            | 根津 昭義  | 齋藤 鶴吉  | クラリネット | 福井 功   | 理事長    | 関 照枝   |
|                 | 堀 伝    | 三戸 正秀  |        | 佛坂 映千生 |        | 中馬 究   |
| ヴァイオリン          | 堀江 悟   | 銅銀 久弥  | 磯部 周平  |        | 曽我 健   | 出口 修平  |
|                 | 前澤 均   | 丹羽 経彦  | 加藤 明久  | トロンボーン | 田畑 和宏  | 西村 集介  |
| 板橋 健            | 宮里 親弘  | 平野 秀清  | 横川 晴児  |        | 野島 直樹  | 芳賀 由明  |
|                 | 武藤 伸二  | 藤本 英雄  |        | 伊藤 清   | 日向 英実  | 松崎 ユリ  |
| 梅澤 美保子          | 村上 和邦  | 茂木 新緑  | ファゴット  | 神谷 敏   | 木田 幸紀  | 望戸 一男  |
| 海野 義雄           | 山口 裕之  |        |        | 栗田 雅勝  | 森 茂雄   | 諸岡 淳   |
| 大澤 淨            | 蓬田 清重  | コントラバス | 岡崎 耕治  | 三輪 純生  | 今井 環   | 吉田 博志  |
| 大林 修子           |        |        | 霧生 吉秀  |        | 根本 佳則  | 渡辺 克   |
| 大松 八路           | ヴィオラ   | 井戸 田善之 | 菅原 恵子  | テューバ   |        | 渡辺 克己  |
| 金田 幸男           |        | 志賀 信雄  |        |        | 役員     |        |
| 川上 朋子           | 大久保 淑人 | 佐川 裕昭  | ホルン    | 多戸 幾久三 | 加納 民夫  |        |
| 川上 久雄           | 小野 富士  | 新納 益夫  |        | 原田 元吉  | 唐木 田信也 |        |
| 窪田 茂夫           | 梯 孝則   |        | 大野 良雄  |        | 斉藤 滋   |        |
| 黒柳 紀明           | 河野 昌彦  | フルート   | 中島 大之  | 打楽器    | 関川 精二  |        |
| 公門 俊之           | 菅沼 準二  |        | 樋口 哲生  |        | 鳴嶋 郁夫  |        |
| 齋藤 真知恵          | 店村 真積  | 菅原 潤   | 松崎 裕   | 有賀 誠門  | 原 武    |        |
| 酒井 敏彦           | 田渕 雅子  | 細川 順三  | 山田 桂三  | 瀬戸 川 正 | 山崎 大樹  |        |
| 清水 謙二           | 中竹 英昭  | 宮本 明恭  |        | 百瀬 和紀  |        |        |
| 鈴木 弘一           | 三原 征洋  |        | トランペット |        |        |        |
| 田渕 彰            | 村山 弘   | オーボエ   |        |        | 事務局    |        |
| 田中 裕            | 山田 雄司  |        | 井川 明彦  |        | 稲川 洋   |        |
|                 | 渡部 啓三  | 青山 聖樹  | 北村 源三  |        |        |        |

フィルハーモニー2025年2月号 | 第97巻 第2号  
2025年2月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49  
TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278  
発行人◎三溝敬志／編集人◎猪股正幸

企画・編集: (一財)NHK財団  
取材・編集: (株)アルテスパブリッシング  
表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社  
©無断転載・複製を禁ず

# 目の眼

ME NO ME  
SINCE 1977

骨董 古美術誌  
2025 No. 579

2・3月号

美の仕事  
茂木健一郎



織部のカタチ  
アバンギャルドな粹

骨董 古美術誌『目の眼』2025年2・3月号 好評発売中



骨董 古美術の愉しみをつたえる「目の眼」

[menomeonline.com](http://menomeonline.com)

目の眼

# 東京春祭

Spring Festival in Tokyo

指揮：マレク・ヤノフスキ

アムフォルタス：クリスティアン・ゲルハーヘル

ティトゥレル：水島正樹

グルネマンツ：タレク・ナズミ

バルジファル：ステュアート・スケルトン

クリングゾル：シム・インスン

クンドリ：ターニャ・アリアーネ・バウムガルトナー

聖杯騎士：大槻孝志、杉浦隆大

小姓：秋本悠希、金子美香、土崎 譲、谷口耕平

クリングゾルの魔法の乙女たち：

相原里美、今野沙知恵、杉山由紀、

佐々木麻子、松田万美江、鳥谷尚子

アルトの声：金子美香

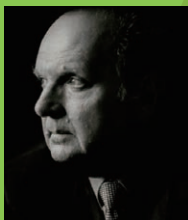
管弦楽：NHK交響楽団

合唱：東京オペラシンガーズ

合唱指揮：エベルハルト・フリードリヒ

西口彰浩

音楽コーチ：トーマス・ラウスマン



Marek Janowski © Felix Broede

東京春祭ワグナー・シリーズ vol.16

# パルジファル (演奏会形式)

全3幕／ドイツ語上演・日本語字幕付 上演時間：約5時間（休憩含む）

2025 **3.27** [木] 15:00 **3.30** [日] 15:00 **東京文化会館 大ホール**  
S ¥27,000 A ¥22,500 B ¥18,500 C ¥15,000 D ¥12,000 E ¥9,000 U-25 ¥3,000

こちら必聴! 東京春祭で聴く、もう一つの「ヤノフスキ×N響」

東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.12

ベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》

東京文化会館 大ホール

S ¥17,500 A ¥15,000 B ¥13,000 C ¥11,000 D ¥9,000 E ¥7,000 U-25 ¥3,000

4.4 [金] 19:00

4.6 [日] 15:00

指揮：マレク・ヤノフスキ  
ソプラノ：アドリアナ・ゴンサレス  
メゾ・ソプラノ：ターニャ・アリアーネ・バウムガルトナー  
テノール：ステュアート・スケルトン  
バス：タレク・ナズミ  
管弦楽：NHK交響楽団  
合唱：東京オペラシンガーズ

## チケットの申込み

東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービス

**www.tokyo-harusai.com**

(座席選択可・登録無料)

※U-25は2月14日[金]12:00発売(音楽祭公式サイト限定取扱)



チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/harusai/>

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp/>

N響ガイド 0570-02-9502

公演に関するお問合せ 東京・春・音楽祭サポートデスク

**050-3496-0202** (月・水・金 10:00-15:00) ※音楽祭開催期間中は土・日・祝日を含め10:00-19:00

主催：東京・春・音楽祭実行委員会 共催：NHK交響楽団 後援：日本ワグナー協会(パルジファル公演) 助成：公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド

歌手が初登場!

オーケストラの魅力をわかち合う

一日限りの“スペシャル”をお届けいたします。



3月31日はミミにいちばん!

# オーケストラの日

東京文化会館 (上野公園内)

東京・春・音楽祭

2025年 3.31 月

大ホール 開演 15:00 (開場 14:00)

## オーケストラの日 祝祭管弦楽団コンサート

首都圏のプロ・オーケストラ13楽団より集った  
楽員による特別なオーケストラ

指揮 太田 弦 ソリスト 清野 友香莉 (ソプラノ)  
城 宏憲 (テノール)

曲目 J. シュトラウス2世:『こうもり』序曲  
『こうもり』より  
「侯爵様、あなたのようなお方は」  
ドニゼッティ:『愛の妙薬』より「人知れぬ涙」  
ヴェルディ:『リゴレット』より「慕わしい人の名は」  
ブッチーニ:『トスカ』より「星は光りぬ」  
ヴェルディ:『椿姫』より「乾杯の歌」  
ベートーヴェン:交響曲第7番

大ホール チケット | 発売日 2025.1.17 金

S: 3,500円 Sペア(2枚): 6,000円  
Sジュニア: 1,000円 (小学生~高校生) A: 2,500円  
Aジュニア: 1,000円 (小学生~高校生) B: 1,500円

小ホール 開演 11:00 (開場 10:30)

## 0歳からのコンサート

入場無料 (全席自由) 要申込

楽しい曲目で  
皆さまをお待ちしております。

お申し込みは 2月17日 (月) より

teket (テケト) にて承ります。

「0歳からのコンサート」終演後にお子様を対象  
とした楽器体験もあります。

詳しくは  
「オーケストラの日2025」  
特設サイトをご確認ください!



「オーケストラの日2025」  
特設サイト

<https://www.orchestra.or.jp/orchestraday2025/>



主催: 首都圏オーケストラの日実行委員会、公益社団法人日本オーケストラ連盟、東京・春・音楽祭実行委員会  
助成: 公益財団法人朝日新聞文化財団、公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション  
協力: 日本音楽財団 (日本財団助成事業)



特別ゲスト: 高橋英樹



司会: 田添菜穂子

指揮: 広上淳一  
ヴァイオリン: 三浦文彰\*  
管弦楽: NHK交響楽団  
特別ゲスト: 高橋英樹  
司会: 田添菜穂子

& 名曲コンサート

Taiga Drama &  
Masterpiece Concert

N  
郷音

放送100年

2025年3月7日[金] 7:00pm  
東京オペラシティ コンサートホール

(京王新線初台駅東口 徒歩5分) ※2時間程度の公演です



© Masaaki Tomitor

© Yuji Hori

発売開始日 2025年1月14日[火] 10:00am (一般発売)

2025年1月9日[木] 10:00am (定期会員先行発売)

料金 全て税込/全席指定

|                | S席      | A席      | B席     | C席     |
|----------------|---------|---------|--------|--------|
| 一般             | ¥12,000 | ¥10,000 | ¥7,000 | ¥5,000 |
| ユースチケット(29歳以下) | ¥6,000  | ¥5,000  | ¥3,500 | ¥2,500 |

- 定期会員は一般料金から10%割引。
- B席・C席はステージの一部が見えづらい席となります。

前売所

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

N響ガイド 0570-02-9502

チケットぴあ [pia.jp/t/nhkso](https://pia.jp/t/nhkso)

e+(イープラス) [eplus.jp/nhkso](https://eplus.jp/nhkso)

ローソンチケット [l-tike.com/nhkso](https://l-tike.com/nhkso)

主催: NHK/NHK交響楽団

曲目

[第1部: 大河ドラマ編]

青天を衝け(2021/佐藤直紀)

軍師官兵衛(2014/菅野祐悟)

麒麟がくる(2020/ジョン・グラム)

翔ぶが如く(1990/一柳慧)

篤姫(2008/吉俣良)

元禄太平記(1975/湯浅譲二)

草燃える(1979/湯浅譲二)

徳川慶喜(1998/湯浅譲二)

真田丸(2016/服部隆之)\*

べらぼう~葛重榮華乃夢啼~  
(2025/ジョン・グラム)

[第2部: 「河」「川」にちなんだ  
クラシック名曲選]

ヴァイオリン協奏曲 第1番  
イ短調 BWV1041 (バッハ)\*

組曲「水上の音楽」から  
第1、3、4、6曲  
(ヘンデル/ハーティ編)

ワルツ「美しく青きドナウ」  
(ヨハン・シュトラウスII世)

組曲「ミシシッピ」から  
「マルディ・グラ」(グロフェ)

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。

※定期会員割引・先行発売のお取り扱いについてはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。

※未就学児についてはN響ガイドにお問い合わせください。

※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

※未就学児のご入場は断りしています。

お問い合わせ: **N響ガイド 0570-02-9502**

営業時間: 10:00am~5:00pm(定休日: 土・日・祝日)

※東京都内での主催公演開催日は、曜日の1営業日前から10:00am~開演時刻まで営業いたします。

※電話受付のみの営業となります。

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。

※公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

ひとりと思う、みんなのメディアへ。

放送100年

[nhkso.or.jp](https://nhkso.or.jp)

Follow us on



# 水素で夢を実現。



## 2025年大阪・関西万博 水素の船から見える未来

時代はカーボンニュートラルへ。その夢に向け、私たちは切り拓いた。

水素をつくり、はこび、つかう。

その一つ一つのチャレンジが実を結び夢への軌跡を描いていく。

2025年、水素エネルギーが大きく動き出す。

水素でつなごう。人と、世界と、そして、夢を。



船の仕組みや  
・ルートは  
こちらから



岩谷産業は、  
2025年大阪・関西万博を  
応援しています。

**Iwatani**  
岩谷産業株式会社